

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

作業療法士科 シラバス

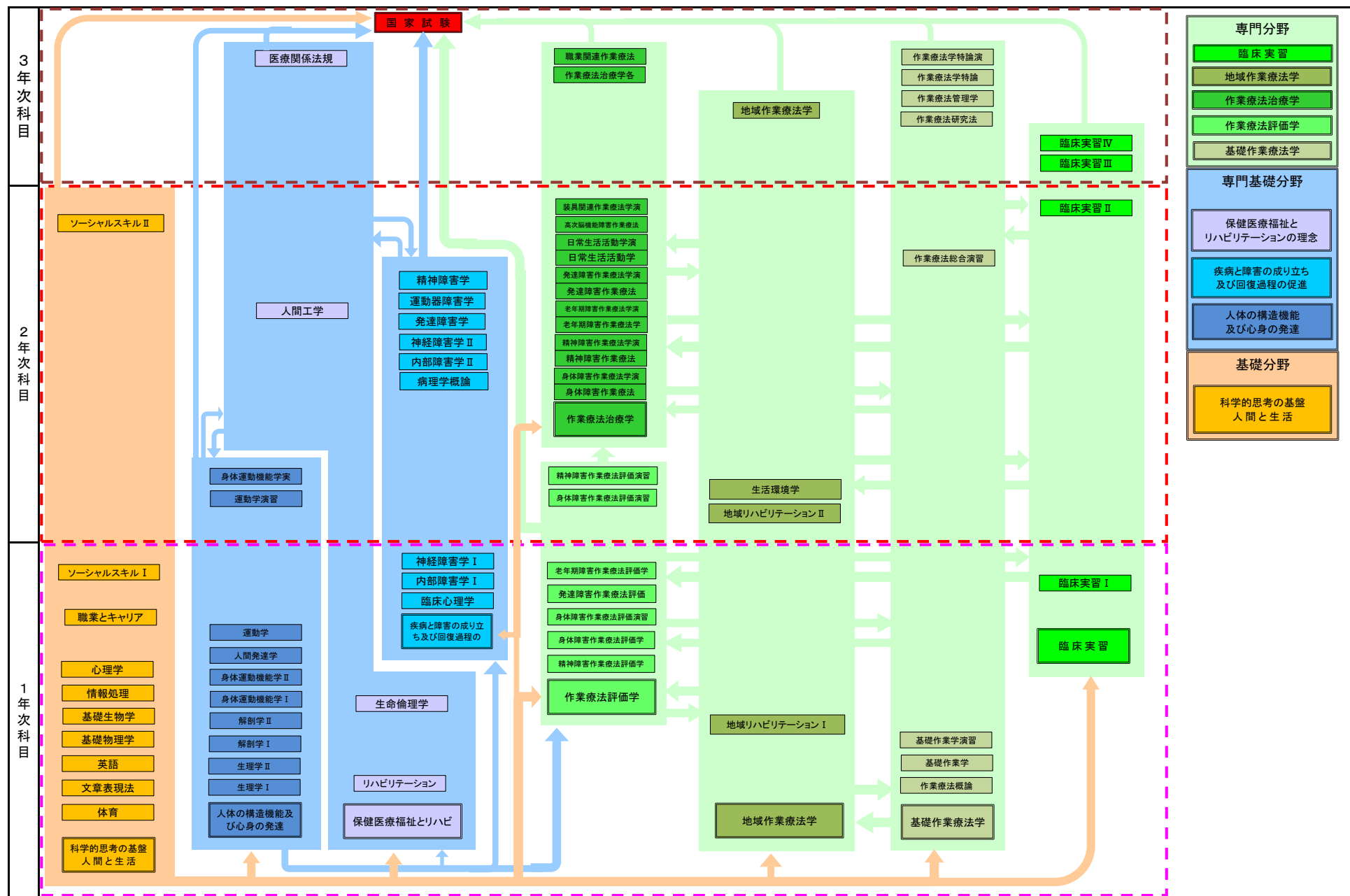


- 教育課程(カリキュラム)
- 科目系統図
- 1年次シラバス(2019 年入学生)
- 2年次シラバス(2018 年入学生)
- 3年次シラバス(2017 年入学生)

平成31年度 作業療法士科カリキュラム【3年課程】

教育内容		授業科目	区分	必・選	1年次		2年次		3年次		合 計 時間数	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的 思考の基盤 人間と生活	基礎生物学	講義	必修	15						15	
		基礎物理学	講義	必修	30						30	
		文章表現法	講義	必修	30						30	
		情報処理	演習	必修	30						30	
		心理学	講義	必修	30						30	
		英語	講義	必修	30						30	
		体育	実習	必修	30	15					45	
		職業とキャリア	講義	必修	15						15	
		ソーシャルスキルⅠ	演習	必修	15	15					30	
	ソーシャルスキルⅡ	演習	必修			30				30		
専門基礎分野	人体の構造と 機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	講義	必修	30						30	
		解剖学Ⅱ	講義	必修		30					30	
		生理学Ⅰ	講義	必修	30						30	
		生理学Ⅱ	講義	必修		30					30	
		身体運動機能学Ⅰ	講義	必修	30	30					60	
		身体運動機能学Ⅱ	講義	必修	15	15					30	
		身体運動機能学実習	実習	必修			30	15			45	
		人間発達	講義	必修	30						30	
		運動学	講義	必修	15	15					30	
		運動学演習	演習	必修			30				30	
		疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の 促進	病理学概論	講義	必修			15	15			30
	内部障害学Ⅰ		講義	必修		30					30	
	内部障害学Ⅱ		講義	必修			30				30	
	神経障害学Ⅰ		講義	必修		30					30	
	神経障害学Ⅱ		講義	必修			30				30	
	発達障害学		講義	必修			15	15			30	
	運動器障害学		講義	必修			30				30	
	精神障害学		講義	必修			30				30	
	臨床心理学		講義	必修		30					30	
	保健医療福 祉と リハビリテー ションの理念	リハビリテーション論	講義	必修	30						30	
		生命倫理	講義	必修	15	15					30	
		人間工学	講義	必修			15	15			30	
		医療関係法規	講義	必修						15	15	
	専門分野	基礎作業療 法学	作業療法概論	講義	必修	30						30
			基礎作業学	講義	必修	15	15					30
			基礎作業学演習	演習	必修	30	30					60
			作業療法総合演習	演習	必修			15	15			30
			作業療法特論	講義	必修						60	60
			作業療法特論演習	演習	必修						60	60
作業療法研究法			講義	必修						15	15	
作業療法管理学			講義	必修					8	7	15	
作業療法評 価学		身体障害作業療法評価学	講義	必修	15	15					30	
		身体障害作業療法評価演習Ⅰ	演習	必修	15	15					30	
		身体障害作業療法評価演習Ⅱ	演習	必修			15	15			30	
		発達障害作業療法評価学	講義	必修		30					30	
		精神障害作業療法評価学	講義	必修		30					30	
		精神障害作業療法評価演習	演習	必修			30				30	
		老年期障害作業療法評価学	講義	必修	15	15					30	
作業治療学		身体障害作業療法学	講義	必修			15	15			30	
		身体障害作業療法演習	演習	必修			15	15			30	
		精神障害作業療法学	講義	必修			15	15			30	
		精神障害作業療法演習	演習	必修			15	15			30	
		老年期障害作業療法学	講義	必修			30				30	
		老年期障害作業療法演習	演習	必修			15	15			30	
		高次脳機能障害作業療法学	講義	必修			15	15			30	
		発達障害作業療法学	講義	必修			15	15			30	
		発達障害作業療法演習	演習	必修			15	15			30	
		日常生活活動学	講義	必修			15	15			30	
		日常生活活動学演習	演習	必修			15	15			30	
		装具関連作業療法演習	演習	必修				30			30	
		職業関連作業療法学	講義	必修						15	15	
		作業療法治療学各論	講義	必修					8	7	15	
地域作業療 法学		地域リハビリテーションⅠ	演習	必修	15	15					30	
		地域リハビリテーションⅡ	実習	必修			30	15			45	
		地域作業療法	講義	必修						15	15	
		生活環境学	講義	必修			15	15			30	
臨床実習		臨床実習Ⅰ(見学)	実習	必修		45					45	
		臨床実習Ⅱ(評価)	実習	必修				135			135	
		臨床実習Ⅲ(総合)	実習	必修					315		315	
		臨床実習Ⅳ(総合)	実習	必修					315		315	
合 計					1,020		975		840		2,835	

作業療法士科 科目関連図(系統図) 三年課程



2019年度 作業療法士科1年 履修科目一覧

授業科目	区分	必・選	1年次		合 計 時間数
			前期	後期	
基礎生物学	講義	必修	15		15
基礎物理学	講義	必修	30		30
文章表現法	講義	必修	30		30
情報処理	演習	必修	30		30
心理学	講義	必修	30		30
英語	講義	必修	30		30
体育	実習	必修	30	15	45
職業とキャリア	講義	必修	15		15
ソーシャルスキル I	演習	必修	15	15	30
解剖学 I	講義	必修	30		30
解剖学 II	講義	必修		30	30
生理学 I	講義	必修	30		30
生理学 II	講義	必修		30	30
身体運動機能学 I	講義	必修	30	30	60
身体運動機能学 II	講義	必修	15	15	30
人間発達	講義	必修	30		30
運動学	講義	必修	15	15	30
内部障害学 I	講義	必修		30	30
神経障害学 I	講義	必修		30	30
臨床心理学	講義	必修		30	30
リハビリテーション論	講義	必修	30		30
生命倫理	講義	必修	15	15	30
作業療法概論	講義	必修	30		30
基礎作業学	講義	必修	15	15	30
基礎作業学演習	演習	必修	30	30	60
身体障害作業療法評価学	講義	必修	15	15	30
身体障害作業療法評価演習 I	演習	必修	15	15	30
発達障害作業療法評価学	講義	必修		30	30
精神障害作業療法評価学	講義	必修		30	30
老年期障害作業療法評価学	講義	必修	15	15	30
地域リハビリテーション I	演習	必修	15	15	30
臨床実習 I (見学)	実習	必修		45	45

※科目名をクリックするとシラバスページへジャンプします。

基礎生物学 (全8回)	作業療法士科	1年	前期
	担当教員	大川 徹	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法士を考え、「生命」「ヒトの生物学」についての基礎生物を学びます。
授業を通じて、理論と実践の両面から作業療法士の専門性を考察します。
生命、誕生等、生命に関わる内容、ヒトの生物学、生命現象に興味を持てるようになります。

★仕上がり像

- 1 生物は細菌からヒトまで共通の原理に基づきながら複雑さと多様性を持つことを理解し説明することができる。
- 2 医療技術者として必要な生命に対する理解を深め、説明することができる。
- 3 生命とそれを支える生命現象の仕組みについて分子レベルを含めて理解を深め説明することができる。

●授業内容

- 1 ガイダンス、細胞、進化からみた病気、生命とは
- 2 生命の誕生、細胞について考察、ゾウリムシの構造
- 3 生物は細胞から、酵素、血液凝固、血液循環
- 4 神経、神経系、眼の構造と働き
- 5 血糖量の調節、腎臓、無性生殖と有性生殖、重複受精
- 6 ウニとカエルの発生過程、先体反応、排出のしくみ
- 7 生命をつくる仕組み、ヒトの遺伝、メンデル性遺伝
- 8 ショウジョウバエの伴性遺伝、ヒトの染色体、生体防御、アレルギー、進化、生命の誕生
定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、平常点等により総合的に評価 します。

●教科書・参考図書

教科書：太田次郎 監修「図解フォーカス 総合生物」（啓林館、2001）

参考図書：柄内新 著「進化から見た病気」（講談社BLUEBUCKS、2009）
R/J Biology翻訳委員会 監訳「現代生物学レーヴン/ジョンソン生物学」
(培風館、2006)

●履修へのアドバイス

授業の終わりに次回分の講義内容と資料を配布するので目を通しておいってください。
授業を休んで毎回行う小テストができない場合は相談してください。
毎回、好きな色のボールペン又はマーカーを持ってきてください。

基礎物理学 (全 15 回)	作業療法士科	1年	前期
	担当教員	儀同 清秀	

●授業概要

★この授業のねらい

各種の作業療法を学ぶときに必要となる物理の基礎を学習します。特に、作業療法を行うときに用いられる様々な機器の原理やメカニズムを理解するために必要となる物理学の基本的な法則や原理を学習します。

本科目では、高等学校で「物理」を履修していない場合があることも念頭に、作業療法士として必要となる物理学の基礎を身に付けることを目指します。

★仕上がり像

- 1 作業療法士として必要となる論理的な思考を身に付け、実践できる。
- 2 各種の作業療法で用いられている物理学の基本的な法則や原理が理解し、説明できる。

●授業内容

1	物理量と単位（S I 単位系）		
2	物理で使う数学		
3	測定値と有効数字、単位の換算		
4	力学の基本		
5	運動と力		
6	力のモーメント		
7	圧力と浮力		
8	エネルギーと仕事		
9	気体と温度・熱		
10	波と音・光		
11	物質と原子		
12	電気（静電気、直流電流、交流電流）		
13	電力と電力量、ジュール熱		
14	電流と磁場		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験結果、平常点（授業参加状況など）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：時政孝行 監修・榎子 研 著「まるわかり！基礎物理 第1版」（南山堂、2011）
自作プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

- ・授業ではノートを取り、例題や練習問題は自ら解答を試みるよう心がけること。
- ・不明な点は、質問をしたり、再度説明を求めて早期に解決するように心がけること。

文章表現法	(全 15 回)	作業療法士科	1 年	前期
		担 当 教 員	小野 昭紘	

●授業概要

★この授業のねらい

自分の意見を伝えたり、相手の話を正確に聞き取るなど、ことばによるやり取りはコミュニケーションの重要な位置を占めます。また、正確で表現力豊かな文章を書くことは、社会人として欠かせない基本的素養です。書き手の考え方、意見心情がどのように表現されているかによって、読み手に対する説得力が大きく違ってきます。そのため、論旨の展開や文脈を整える技術を身に付けることが必要になります。

自分の考えをまとめて、他者に伝わるような文章にしていけるプロセスを経験し、レポート等の作成に役立てていくことをねらいとします。

★仕上がり像

- 1 自分の考えていることを具体的に表現し、的確に述べることができる。
- 2 正確かつ的確に伝える文章表現力を身に付け、実践することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション
2	要約と主旨 社説・コラムによる練習
3	自分を理解してもらうには (自己紹介・自己推薦書を書く)
4	文章表現の基本 (原稿用紙の使い方)
5	文章表現の基本 (横書き・縦書き・レポート・連絡文)
6	手紙文の基本ルール 恩師への近況報告
7	材料の整理・主題の設定
8	読む人に理解される文章とは 外来語 カタカナ語 1～50
9	外来語 カタカナ語 51～100
10	変換ミスを防ぐために 同音異義語(あ～な)
11	変換ミスを防ぐために 同音異義語(は～わ)
12	敬語を正しく使うために(尊敬語)
13	敬語を正しく使うために(謙譲語、丁寧語)
14	長文に挑戦しよう 1200字の小論文
15	小論文の清書提出 定期試験の確認
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験および平常点等から総合評価とします。

●教科書・参考図書

特に指定しません。授業中プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

考えていることをとにかく表現してみましょう。国語辞典を携帯し、すぐに使用できるようにしましょう。

書いた文章は必ず見直す習慣をつけましょう。あれっ、おかしいなと感じることが重要です。幅広い知識・教養が基本ですので、新聞を読む習慣をつけましょう。社会人として基本的な文章読解力と文章構成能力を身に付けるよう頑張りましょう。

情報処理	(全 15 回)	作業療法士科	1 年	前期
		担当教員	吉田 雅弘	

●授業概要

★この授業のねらい

近年の高度医療化傾向は、従来の医学固有の技術のみならず周辺領域の科学技術によって支えられています。特に急速な発展を遂げている I T 技術はその代表です。この授業ではパソコンで広く利用されている日本語ワープロソフト、表計算ソフトの操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能や応用力を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 初めの人でもパソコンを操作することができる。
- 2 Word、Excelを使いこなすことができる。
- 3 インターネットなども活用でき、情報検索や処理ができる。
- 4 職場でパソコンを利用し、専門の業務に役立たせることができる。

●授業内容

1	Windowsの基本操作とインターネット		
2	Wordの起動と文書作成、入力速度測定		
3	レポート作成法		
4	段組みとドロップキャップ		
5	差し込み印刷		
6	Excelの起動とデータ入力		
7	表の作成と関数の利用		
8	関数の応用		
9	グラフの作成		
10	アンケート結果の集計		
11	PowerPointの起動とプレゼンテーション		
12	スライド作成演習(1)		
13	スライド作成演習(2)		
14	スライド作成演習(3)		
15	プレゼンテーション発表		

●成績評価のしかた

提出課題、実習への取り組み方および発表などを総合して評価します。

●教科書・参考図書

教科書: n o a 出版著作「身近なテーマで作って学ぶ!学生のためのOffice2013&情報モラル」
(n o a 出版、2014)

●履修へのアドバイス

興味を持ち積極的に授業を受けましょう。また、実習室の空き時間を利用し、早く正確にキーボードが打てるよう入力練習などを心がけましょう。

心理学 (全15回)	作業療法士科	1年	前期
	担当教員	瀧澤 颯大	

●授業概要

★この授業のねらい

近年、「心理学」という言葉がメディア等を通じて社会に広まりつつあります。また、2017年9月に公認心理師法が施行され、「心のケア」「心理的支援」という言葉がより一層身近に感じられるものとなってきました。
本講義では、「心理学」という学問がどのような学問であるのか？ということについて、人間の心の仕組みと働きについて、様々な視点から理解を深めながら学んでいくことを目的としていきます。また、心理学の社会的貢献性(心理学を応用することによってできること)やその可能性の限界(反対に心理学にできないこと)についても学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 「心理学」という学問について説明することができる。
- 2 人間の心の仕組みと働きについて説明することができる。
- 3 人間の心と身体の関係(脳・神経・生理等)について説明することができる。
- 4 人間の発達過程に生じる現象とそのメカニズムについて説明することができる。
- 5 心理学の貢献性と限界について説明することができる。

●授業内容

1	ガイダンス・「心」とは何か・心理学の歴史
2	知覚・感覚（感覚受容器、精神物理学）
3	知覚・感覚（知覚の恒常性、ゲシュタルト心理学）
4	記憶
5	学習・行動（動機づけを含む）
6	感情
7	思考（思考の過程と種類）
8	思考（推論、問題解決）
9	発達（発達に関する諸理論、思春期までの発達）
10	発達（青年期以降の発達、発達に関する研究）
11	知能・性格
12	社会
13	心の構造（精神分析入門）
14	心の健康（臨床心理学概論）
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(80点)、平常点(毎回のリアクションペーパー等：20点)。

●教科書・参考図書

教科書：山蔦圭輔 著「心理学・臨床心理学概論(第4版)」(北樹出版、2019)
参考図書：サトウタツヤ・渡邊芳之 著「心理学・入門—心理学はこんなに面白い」(有斐閣、2011)
金沢創・市川寛子・作田由衣子著「ゼロからはじめる心理学・入門—人の心を知る科学」(有斐閣、2015)

●履修へのアドバイス

講師の説明だけではなく、学生のみなさんとのやり取りを多く取り入れて講義を展開していきたいと考えています。なお、特別な配慮等が必要な場合については、速やかにお知らせ下さい。可能な限り対応していきたいと考えております。また、講義に臨むにあたっては、予習や復習に加え、各自関心をもって自学自習に励んでいただければ幸いです。事前に教科書の該当する章を読んでおくとう理解を深めやすくなるかと思います。

英 語	(全 15 回)	作業療法士科	1年	前期
		担当教員	北村 知加美	

●授業概要

★この授業のねらい

国際社会化が進む中、公用語として幅広く使用している「英語」による会話を学びます。リハビリテーションの性格上、切っても切れない関係にある上、コミュニケーションの1つの手段として日常会話の取得を目指します。

医療に関係した英文の講読や英語表現の演習を通して、医学および医療現場で良く使用されている英語の読解力・聴解力・表現力を養います。

★仕上がり像

- 1 簡単な挨拶をはじめとする日常英会話ができる。
- 2 コミュニケーションの手段の1つとして、日常使用することができる。
- 3 英語に慣れ、医療現場でも実践できる。
- 4 アブストラクト（要旨）が読むことができる。

●授業内容

1	オリエンテーション	シラバス テキスト案内 自己紹介 挨拶
2	Fever(発熱)	発熱・医学全般用語・会話表現・リスニング 読解(case summary)
3	Anemia(貧血)	血液に関する用語・会話表現・リスニング 病院での挨拶
4	Dehydration(脱水症)	脱水に関する用語・会話表現・リスニング 読解(what to do)
5	Obesity(肥満)	肥満に関する用語・会話表現・リスニング 問診(身体部位)
6	Headache(頭痛)	脳神経に関する用語・会話表現・リスニング 読解(症例理解)
7	Chest Pain(胸痛)	心臓・血管に関する用語・会話表現・リスニング 問診(痛み)
8	Cough(咳)	呼吸器に関する用語・会話表現・リスニング 読解(身体機能)
9	Abdominal Pain(腹痛)	消化器系に関する用語・会話表現・リスニング 問診(経過)
10	Dysphagia(嚥下障害)	誤嚥に関する用語・会話表現・リスニング 基本肢位指示
11	Hearing loss(聴力障害・難聴)	難聴に関する用語・会話表現・リスニング 応用肢位指示
12	Fracture(骨折)	外傷やその治療に関する用語・会話表現・リスニング
13	Pregnancy(妊娠)	妊娠に関する用語・会話表現・リスニング
14	Medical Interview	用語まとめ
15	Medical Interview	会話表現のまとめ
	定期試験	

●成績評価のしかた

定期試験(70点)および平常点(30点)で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：日本医学英語教育学会 編集「総合医学英語テキスト step1」(メジカルビュー社、2016)

●履修へのアドバイス

積極的に恥ずかしがらずに参加してください。会話は間違えながら覚えるものです。

体 育	(全 2 3 回)	作業療法士科	1年	通年
		担当教員	石川 寿郎	

●授業概要

★この授業のねらい

体育実技を通して自身の体力の向上をめざします。各種目の練習、ゲームを通して隣人とのコミュニケーション(相手への思いやり・相手の立場等)を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 各種目のルール、技術・戦術を理解し、実践することができる。
- 2 体力の維持・増進のため、身体を動かす事の大切さを理解し、他者に説明できる。
- 3 他人との協調性を身に付け、コミュニケーションをはかることができる。

●授業内容

1	オリエンテーション(授業のガイダンス)	16	バスケットボール (パス)
2	バレーボール (ルール、審判)	17	バスケットボール (シュート)
3	バレーボール (サーブ)	18	バスケットボール (ゲーム)
4	バレーボール (オーバーハンドパス)	19	バドミントン (ルール、審判)
5	バレーボール (アンダーハンドパス)	20	バドミントン (ロングサーブ)
6	バレーボール (ゲーム)	21	バドミントン (ショートサーブ)
7	バレーボール (実技、サーブ)	22	バドミントン (レシーブ)
8	サッカー(フットサル・ルール、審判)	23	バドミントン (ゲーム)
9	サッカー(フットサル・キック)		
10	サッカー(フットサル・トラップ)		
11	サッカー(フットサル・パス)		
12	サッカー(フットサル・ゲーム)		
13	サッカー(フットサル・実技、シュート)		
14	バスケットボール (ルール、審判)		
15	バスケットボール (ドリブル)		

●成績評価のしかた

実技点・平常点等で評価します。

●教科書・参考図書

使用しません。

●履修へのアドバイス

授業開始5分前に集合。運動に適した服装(ジャージ)で、夏はTシャツ、ハーフパンツでもOKです。靴は室内用スニーカーを使用してください。

職業とキャリア (全8回)	作業療法士科	1年	通年
	担当教員	佐井 省吾	

●授業概要

★この授業のねらい

「働くこと」の意義を学び、社会人・職業人としてのモラルの知り、21世紀における社会の動向について学び、社会人としての基本的な職業観を身に付けることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 「働くこと」「職業とは」について学び、人間社会に取っていかに重要かを知り、医療現場で役立てることができる。
- 2 職業人としての心構え・態度、すなわち「マインド」について知り、他者に説明できるようになる。
- 3 社会の動向を知り、その中で職業人として社会の変化にどのように対応して行くかを知り、実践することができる。

●授業内容

1	人はなぜ働くか		
2	キャリア・デザイン		
3	人生のバランスシート		
4	職業人のマインド		
5	社会人・職業人のモラル		
6	社会貢献		
7	仕事と人の幸福の関係		
8	人生70万時間		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験と平常点等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

配付プリントによって授業を進めます。

●履修へのアドバイス

社会人としての職業観を身に付けるため、配布プリントで十分に復習をしてください。

ソーシャルスキルⅠ	(全15回)	作業療法士科	1年	通年
		担当教員	芝 亜砂美	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法士にとって、医学知識や作業療法の技術とともに重要なのがソーシャルスキルです。臨床でよい仕事をするためには、患者様や病院関係者・上司・先輩等と「スムーズな人間関係を築く」ことが必要です。加えて、社会人として仕事をしていく上で自己管理能力も大事です。この科目では、挨拶・敬語・接遇・マナー・身のこなし・エチケット・好印象な話し方・人間関係づくり・自己管理の基本を習得します。

★仕上がり像

- 1 誰とでもスムーズにコミュニケーションをとることができる。
- 2 その場の状況に相応しい動作・態度が取ることができる。
- 3 その場に相応しい敬語を使い分けることができる。

●授業内容

1	オリエンテーション		
2	一般組織図と身だしなみについて		
3	基本動作（お辞儀の三種類）		
4	基本動作（お辞儀の三種類の実技）		
5	敬語（尊敬語）		
6	敬語（謙譲語）		
7	敬語（丁寧語）		
8	席順について		
9	冠婚葬祭（不祝儀編）		
10	冠婚葬祭（祝儀編）		
11	封筒の宛名書き		
12	院内の歩き方（施設内廊下・階段）		
13	院内の歩き方（他施設ロビー等）		
14	電話実習（患者様・患者様の家族・施設内）		
15	電話実習（取り継ぎ方）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、平常点等で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：青木テル 著「ビジネスマナー」（早稲田教育出版、2000）

●履修へのアドバイス

校内では誰に対しても積極的に挨拶をしましょう。
配付された資料を各自ファイルに綴じ保管してください。

解剖学Ⅰ	(全15回)	作業療法士科	1年	前期
		担当教員	曾我部 いつみ	

●授業概要

★この授業のねらい

これから医学を学ぶものにとって「解剖学」は知識の土台となるものです。今後学ぶ専門分野の科目や卒業後の臨床においても、常に問われる分野の学問です。身体（解剖学では、人体と呼びます）の構造を1つ1つ学び、表現するための専門用語を知り、基本的な形態を学んでいきます。「解剖学Ⅰ」では、主として個体生命維持に関わる内臓や感覚器の構造と機能を学びます。

★仕上がり像

- 1 人体の構造を表現する際、解剖学的用語を使用することができる。
- 2 消化器・内臓、呼吸・循環器、内分泌・感覚器の基本構造と機能を説明することができる。

●授業内容

1	基本事項と消化器総論、口腔の機能と構造
2	消化器系（咽頭・食道、胃）
3	消化器系（十二指腸・小腸、大腸）
4	消化器系（肝臓と胆嚢）
5	消化器系（膵臓）、呼吸器系の導入
6	呼吸器系（副鼻腔、咽頭、喉頭、気管・気管支）
7	呼吸器系（肺）、泌尿器系（腎臓～尿道）
8	生殖器系（女性、男性）
9	循環器系 総論（大循環・小循環等）
10	循環器系（心臓）
11	循環器系（動脈）
12	循環器系（静脈・リンパ）
13	内分泌系（下垂体・副腎等）
14	感覚器系・眼・鼻・耳・神経終末
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、平常点などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：平田幸雄 訳「解剖学アトラス 第10版」（文光堂、2012）
野村 嵯 編集「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」（医学書院、2015）

参考図書：相磯貞和 訳「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」（南江堂、2016）

●履修へのアドバイス

解剖学アトラスに沿って進みます。予習復習を心がけてください。
模型や標本を使用しますので、授業の前後に自分の目で確認を行ってください。

解剖学Ⅱ	(全15回)	作業療法士科	1年	後期
		担当教員	曾我部 いづみ	

●授業概要

★この授業のねらい

医学を学ぶものにとって「解剖学」は知識の土台となる科目であり、2年次から学ぶ専門分野の科目や卒業後の臨床においても、常に問われる分野の学問です。前期に学んだ解剖学Ⅰに引き続き、この科目では人体の構造のうち中枢神経系について、その構造と機能を学びます。

★仕上がり像

- 1 解剖学的用語を適切に使用することができる。
- 2 中枢神経の種類とその構造、機能をリハビリテーションと関連づけて理解することができる。

●授業内容

1	神経系の総論・神経の構造、発生
2	脳（脳室系・脳、脊髄膜、動脈）
3	脳・大脳半球
4	脳幹（延髄）
5	脳幹（橋・中脳）
6	脳幹（間脳）
7	小脳、大脳髄質の構造ならびに大脳基底核
8	脊髄神経
9	脳神経（嗅神経・視神経・動眼神経・滑車神経・三叉神経・外転神経）
10	脳神経（顔面神経・聴神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経）
11	自律神経 概論と交感神経系
12	自律神経 副交感神経系
13	神経路（上行路・感覚路）
14	神経路（下行路・錐体路・錐体外路）
15	まとめ・神経障害との関わり
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験および平常点等で総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：平田幸雄 訳「解剖学アトラス 第10版」（文光堂、2012）
野村 嵯 編集「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」（医学書院、2015）

参考図書：相磯貞和 訳「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」（南江堂、2016）

●履修へのアドバイス

解剖学はもちろんですが、身体運動機能学Ⅰ・Ⅱとも系統立てて学習するようにしてください。

生理学 I	(全 15 回)	作業療法士科	1 年	前期
		担当教員	竹下 悠哉	

●授業概要

★この授業のねらい

生命活動を維持するために必要な中枢神経系、末梢神経系、筋の運動、血液などの機能について学び、臨床医学や専門分野を学ぶために必要な基礎知識を身に付けることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 生命の維持メカニズムの概略を説明できる。
- 2 中枢神経系の役割と機能を説明できる。
- 3 筋の活動を把握し、説明できる。
- 4 感覚刺激がどのように伝達され、中枢神経系に情報として到達するのか説明できる。
- 5 血液の特性と機能を説明できる。

●授業内容

1	生命現象と人体
2	細胞の構造と機能
3	神経の興奮伝導と末梢神経(神経細胞の構造・興奮の発生と伝達・末梢神経の種類)
4	神経の興奮伝導と末梢神経(自律神経・シナプスにおける興奮の伝導)
5	中枢神経系(中枢神経系とは・脊髄)
6	中枢神経系(脳幹・小脳)
7	中枢神経系(間脳・大脳皮質・大脳基底核と脳梁・辺縁系・脳室と脳脊髄液・血液脳関門)
8	中枢神経系(脳の高次機能)
9	筋と骨(筋の分類・骨格筋)
10	筋と骨(心筋・平滑筋・心電図・骨)
11	感覚(感覚とは・体性感覚・内臓感覚)
12	感覚(特殊感覚)
13	血液(血液組織と機能・赤血球)
14	血液(白血球・血小板・血漿・血液型)
15	心臓と循環(血液循環・心臓の興奮と刺激伝導系・心電図)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験および履修状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岡田隆夫 他 著「標準理学療法・作業療法学 生理学 第5版」(医学書院、2018)

●履修へのアドバイス

テキストに沿って授業を進めます。図と表での理解を中心にメカニズムを学習します。

生理学Ⅱ	(全15回)	作業療法士科	1年	後期
		担当教員	竹下 悠哉	

●授業概要

★この授業のねらい

生命活動を維持するために必要な循環と呼吸、排泄、消化吸収、ホルモン、代謝などの機能について学び、臨床医学や専門分野を学ぶために必要な基礎知識を身に付けることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 循環、呼吸系のメカニズムを説明できる。
- 2 消化吸収の機構を説明できる。
- 3 ホルモンの働きを説明できる。
- 4 エネルギー代謝、体温調節のメカニズムを説明できる。
- 5 各単元内容を、人体の中での一連の機能として考え、説明できるようになる。

●授業内容

1	心臓と循環（血液の拍出と血圧・心周期・）
2	心臓と循環（前負荷－後負荷と収縮・心機能曲線・血圧調節）
3	心臓と循環（微小循環と物質交換・静脈還流・臓器循環・リンパ循環）
4	呼吸とガスの運搬（外呼吸と内呼吸・気道と肺胞・呼吸運動・呼吸気量）
5	呼吸とガスの運搬（ガス交換とガス運搬・呼吸の調節・病的呼吸）
6	尿の生成と排泄
7	酸塩基平衡
8	消化と吸収（消化器の役割・口腔内消化と嚥下・食道における食物輸送・胃の役割と消化 ・十二指腸における消化）
9	消化と吸収（空腸-回腸における消化と栄養吸収・大腸の役割・肝臓の役割）
10	内分泌（内分泌機能とホルモン）
11	内分泌（各腺から分泌されるホルモンの作用・内分泌細胞）
12	代謝と体温（栄養素・エネルギー代謝）
13	代謝と体温（体温）
14	生殖と発生
15	運動生理
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験および履修状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岡田隆夫 他 著「標準理学療法・作業療法学 生理学 第5版」（医学書院、2018）

●履修へのアドバイス

テキストに沿って授業を進めます。図や表での理解を中心にメカニズムを学習します。

身体運動機能学Ⅰ	(全30回)	作業療法士科	1年	通年
		担当教員	内山 大輔	

●授業概要

★この授業のねらい

骨格構造、関節構造、筋の付着、神経など身体の構造と機能について学ぶ科目です。専門科目の土台となる知識を修得する大切な科目の一つです。この科目を通して、臨床医学を理解するための知識のみならず、評価・治療を行うための基礎的な知識を身に付けてください。

★仕上がり像

- 1 医療従事者として必要な人体の構造と機能を専門用語を用いて説明することができる。
- 2 骨・関節などの構造・機能・名称ならびにその位置関係を理解し、説明することができる。
- 3 身体を触診し、骨・筋の名称を説明することができる。

●授業内容

1	身体運動機能学総論・骨学総論	16	支配神経総論
2	脊柱の骨	17	頭部・頸部・胸部、体幹の筋
3	上肢帯・上腕の骨	18	上肢帯筋
4	前腕骨・手部の骨	19	上腕の前面の筋
5	下肢帯・大腿の骨	20	上腕の後面の筋
6	下腿・足の骨	21	前腕筋
7	骨学のまとめ	22	手指の筋
8	関節靭帯総論	23	下肢帯の筋
9	脊柱の関節・靭帯・胸郭	24	大腿の筋
10	肩関節	25	下腿の筋
11	肘・手の関節	26	足部の筋
12	骨盤・股関節	27	筋学まとめ
13	膝関節	28	身体運動機能学まとめ（体幹筋の触診）
14	足関節	29	身体運動機能学まとめ（上肢筋の触診）
15	筋学総論	30	身体運動機能学まとめ（下肢筋の触診）
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（70点）、課題提出（30点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：野村 嶺 編集「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」（医学書院、2015）
 青木隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術－上肢」
 （メジカルビュー社 2011）
 青木隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術－下肢・体幹」
 （メジカルビュー社 2011）

参考図書：平田幸男 訳「解剖学アトラス 原著第10版」（文光堂、2012）

●履修へのアドバイス

予習のため宿題を出しますので、忘れずに行うようにしてください。また、専門用語が多く出てきますので復習を心がけましょう。骨標本を使用してイメージを膨らませ、自身の身体で部位の同定を行いましょう。

身体運動機能学Ⅱ	(全15回)	作業療法士科	1年	通年
		担当教員	時永 広之・黒澤 辰也	

●授業概要

★この授業のねらい

身体の運動は関節が筋によって動かされることで起こっています。筋は中枢神経からの命令によって動いています。身体運動機能学Ⅱは、身体運動機能学Ⅰで学んだ人体の骨、筋、神経の構造・機能を基に主に関節運動について理解することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 身体運動に関わる基本的事項を説明できる。
- 2 身体各部の骨・関節と筋の位置関係を述べるができる。
- 3 関節運動の機序とそれに関わる筋の作用を説明できる。

●授業内容

1	身体運動の基本的事項
2	身体運動と「てこ」
3	関節運動の基礎知識
4	上肢帯の運動
5	肩関節の運動
6	肘関節と前腕の運動
7	手関節と手の運動(手関節と手根管)
8	手関節と手の運動(手部アーチと手指運動)
9	体幹の運動
10	下肢帯と股関節の構造と運動
11	下肢帯と股関節の筋及び骨盤と股関節
12	膝関節の構造と運動
13	膝関節の筋及び膝蓋骨
14	足関節・足部の構造と運動
15	足部のアーチと変形
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(筆記)50点、中間テスト40点、平常点(提出物)10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田村隆一・斉藤宏 著「基礎運動学 第6版 補訂」(医歯薬出版、2012)
中島雅美・中島喜代彦 編集「基礎から学ぶ運動学ノート 第2版」(医歯薬出版、2016)

参考図書：嶋田智明 監訳「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」(医歯薬出版、2012)

●履修へのアドバイス

毎回の授業前に学習範囲の生理学的・身体運動機能学Ⅰの見直しをして授業に臨んでください。
授業前後に運動学ノートの該当箇所に取り組んでください。
実際に身体を動かしたり、他者の観察や触診が理解につながりますので、積極的に行いましょう。
わからないことはできるだけ早めに質問等をして解決していきましょう。
授業後に記入する授業ポートフォリオを学習に活用してください。

人 間 発 達 (全 1 5 回)	作業療法士科	1 年	前期
	担当教員	笹木 美幸	

●授業概要

★この授業のねらい

人間は生まれもってすべての能力が備わっているわけではありません。それぞれの発達時期にどのような能力が発達するか、認知、社会、身体などの側面から学んでもらいます。また、皆さんがまだ経験していない成人期以降の発達も学ぶことから、「ゆりかごから墓場まで」の生涯にわたる発達について勉強します。今後のリハビリテーションにおいて、アプローチをする上で役立ててください。

★仕上がり像

- 1 発達の諸概念を正しく理解し、説明することができる。
- 2 各発達段階(乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期)の発達の違いを理解し、それに対する問題意識を持つことができる。
- 3 リハビリテーションにおいて対象となる、多岐にわたる心身機能やその成長の遅れや疾病（異常）、および老化に起因する障害像に触れ理解し、説明することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション・発達とは何？
2	人間発達（発達理論）
3	発達検査
4	姿勢反射・反応
5	運動発達（0～3ヶ月）
6	運動発達（4～6ヶ月）
7	運動発達（7～9ヶ月）
8	運動発達（10～12ヶ月）
9	運動発達（13～18ヶ月）
10	姿勢反射・反応と6歳までの発達
11	上肢機能の発達
12	ADLの発達（遊び・食事・排泄・更衣）
13	感覚・知覚・認知・社会性の発達
14	学童・青年・成人・老年期の発達
15	発達障害とまとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、レポート・平常点等を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：上杉雅之 監修「イラストでわかる人間発達学」（医歯薬出版、2015）

●履修へのアドバイス

楽しい授業にするために、授業中のルールを守り、積極的に参加しましょう。

運動学	(全15回)	作業療法士科	1年	通年
		担当教員	時永 広之	

●授業概要

★この授業のねらい

運動学は、身体運動を科学的に捉える学問です。運動は関節が筋によって動かされることで起こっています。筋は中枢神経からの命令によって動いています。

運動学では身体運動機能学Ⅰ・Ⅱで学習した骨・筋・関節・神経系の構造、関節単位の運動を基に、中枢神経系と運動の関係や、人間の全身的な運動がどのように行われているかを理解することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 運動の発現から実行までの機序を説明できる。
- 2 正常な姿勢を支えている身体機能及び異常姿勢の原因について説明できる。
- 3 歩行周期、歩行時の関節運動・筋活動・重心移動の様態及び機能について説明できる。
- 4 呼吸運動の仕組みと身体のエネルギー代謝について説明できる。
- 5 運動学習の基本決事項について説明できる。

●授業内容

1	随意運動(総論)
2	随意運動(機序)
3	関節運動
4	姿勢(基本事項、身体重心)
5	姿勢立位姿勢の安定性
6	姿勢(立位姿勢と筋活動)
7	異常姿勢
8	歩行(歩行周期、重心移動)
9	歩行(関節角度変化)
10	歩行(筋活動、上肢体幹の運動)
11	歩行(まとめ)
12	呼吸運動
13	エネルギー代謝(基礎代謝、運動強度)
14	エネルギー代謝(エネルギー消費量・代謝)
15	運動学習
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(筆記)50点、中間テスト40点、平常点(提出物)10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田村隆一・斉藤宏 著「基礎運動学 第6版 補訂」(医歯薬出版、2012)
中島雅美・中島喜代彦 編集「基礎から学ぶ運動学ノート 第2版」(医歯薬出版、2016)

参考図書：嶋田智明 監訳「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」(医歯薬出版、2012)

●履修へのアドバイス

毎回の授業前に学習範囲の生理学的・身体運動機能学Ⅰ・Ⅱの見直しをして授業に臨んでください。
授業前後に運動学ノートの該当箇所に取り組んでください。
実際に身体を動かしたり、他者の観察や触診が理解につながりますので、積極的に行いましょう。
わからないことはできるだけ早めに質問等をして解決していきましょう。
授業後に記入する授業ポートフォリオを学習に活用してください。

内部障害学Ⅰ	(全15回)	作業療法士科	1年	後期
		担当教員	沖田 孝一	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床において経験すると思われる代表的な内科疾患について、その病態、症状、治療に関して学びます。また、内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、その実践に応用できるように知識を習得することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 代表的な内科疾患の基礎病態を把握し、説明することができる。
- 2 病態と合併症の関連性を説明できる。
- 3 各疾患の治療について説明できる。
- 4 退行性変化および加齢性の変化について説明することができる。

●授業内容

1	総論（内科学とは。内科学とリハ）
2	総論（診断の手順 問診等）
3	総論（臨床検査と薬物療法）
4	症候学（発熱、全身倦怠等）
5	症候学（めまい、浮腫、頭痛等）
6	循環器疾患（心臓血管系の構造と機能）
7	循環器疾患（症候と病態生理）
8	循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患）
9	循環器疾患（心弁膜疾患、心筋症等）
10	循環器疾患（大動脈疾患、末梢性動脈疾患）
11	呼吸器疾患（呼吸器系の構造と機能）
12	呼吸器疾患（症候と病態生理）
13	呼吸器疾患（上気道炎、肺炎等）
14	消化器疾患（消化器系の構造と生理）
15	消化器疾患（症候と病態生理、食道疾患）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験と平常点等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：前田 眞治 他 著「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 内科学 第3版」
(医学書院、2014)

参考図書：大内尉義 編集「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 老年学」第4版
(医学書院、2014)

●履修へのアドバイス

内部障害学は臨床医学の基本です。解剖学、生理学、病理学と関連づけて学習するようにしましょう。

神経障害学Ⅰ	(全15回)	作業療法士科	1年	後期
		担当教員	内山大輔・山本ともみ・箭内雅志 富永 淳・星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

神経障害へのリハビリテーションを行う上で必要な基礎疾患に関する知識を学習します。中枢神経系の疾患について発症要因や病態、症状の特徴および治療法について学びます。

★仕上がり像

- 1 中枢神経系各部位の構造・機能と神経症状・症候群を関連づけることができる。
- 2 各疾患・症候群の特徴を挙げ、発症要因や病態、出現する症候について説明ができる。
- 3 代表的な疾患・症候群の医学的治療方法について説明ができる。

●授業内容

1	中枢神経系の解剖と機能（大脳皮質・基底核・辺縁系）
2	中枢神経系の解剖と機能（小脳・脳幹・脳脊髄液）
3	中枢神経系の解剖と機能（脳神経・脊髄・伝導路）
4	脳血管障害
5	脳梗塞
6	脳出血
7	外傷性脳損傷・脳神経外科領域の疾患（感染性疾患・その他）
8	脳腫瘍・頭蓋内圧亢進・脳浮腫・脳ヘルニア
9	変性疾患総論
10	脱髄疾患総論
11	神経筋疾患総論
12	パーキンソン病と類似疾患
13	脊髄疾患総論
14	脊髄損傷（頸髄損傷・胸髄損傷）
15	脊髄損傷（腰髄損傷・馬尾神経障害）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）及び平常点等（20点）により総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：川平和美 編集「標準理学療法・作業療法 神経内科学 第4版」（医学書院、2013）
尾上尚志 他 監修「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」（MEDIC MEDIA社、2011）

●履修へのアドバイス

一つ一つの疾患や症候群について、覚えることが非常に多い分野です。常に予習復習を心がけ、疑問点などはその場で解決するよう積極的に質問をするよう心がけてください。

臨床心理学 (全15回)	作業療法士科	1年	後期
	担当教員	瀧澤 颯大	

●授業概要

★この授業のねらい

近年、「心理学」という言葉がメディア等を通じて社会に広まりつつあります。また、2017年9月に公認心理師法が施行され、「心のケア」「心理的支援」という言葉がより一層身近に感じられるものとなってきました。

本講義では、前期に学んだ「心理学」の学問領域の一つである「臨床心理学」という学問について、その歴史と学派がどのような発展を遂げ、社会に貢献してきたのかということについて学ぶことを目的としていきます。また、心の病(精神疾患)や心のケア(心理療法)、心理的問題の理解とその方法(心理アセスメント)といった臨床の現場における心理学の貢献可能性についても取り上げます。

★仕上がり像

- 1 「臨床心理学」という学問について説明することができる。
- 2 臨床心理学の発展を築いてきた学派の特徴とその発展について説明することができる。
- 3 心の病(精神疾患等)について説明することができる。
- 4 心のケア(心理療法)について説明することができる。
- 5 心理的問題の理解とその方法(心理アセスメント)について説明することができる。

●授業内容

1	ガイダンス・改めて「心」とは何か・臨床心理学の誕生
2	臨床心理学の歴史
3	臨床心理学の学派(精神分析)
4	臨床心理学の学派(認知・行動)
5	臨床心理学の学派(人間性心理学)
6	心の病・精神疾患等(精神医学概論)
7	心の病・精神疾患等(発達障害概論)
8	心のケア・心理療法(精神分析)
9	心のケア・心理療法(認知行動療法)
10	心のケア・心理療法(来談者中心療法)
11	心理的問題の理解とその方法(心理アセスメント・質問紙法、投影法)
12	心理的問題の理解とその方法(心理アセスメント・面接法、検査法)
13	臨床心理学の関連領域(保健・医療・教育)
14	臨床心理学の関連領域(福祉・司法・矯正)
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(80点)、平常点(毎回のリアクションペーパー等:20点)。

●教科書・参考図書

教科書: 山蔦圭輔 著「心理学・臨床心理学概論(第4版)」(北樹出版、2019)

参考図書: 岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美 著「臨床心理学入門―多様なアプローチを越境する」
(有斐閣、2013)

渡辺俊之 著「新版 ケアを受ける人の心を理解するために」(中央法規、2013)

●履修へのアドバイス

講師の説明だけではなく、学生のみなさんとのやり取りを多く取り入れて講義を展開していきたいと考えています。なお、特別な配慮等が必要な場合については、速やかにお知らせ下さい。可能な限り対応していきたいと考えております。また、講義に臨むにあたっては、予習や復習に加え、各自関心をもって自学自習に励んでいただければ幸いです。事前に教科書の該当する章を読んでおくとう理解を深めやすくなるかと思います。

リハビリテーション論 (全 15 回)	作業療法士科	1 年	前期
	担 当 教 員	小林 巧	

●授業概要

★この授業のねらい

これから学んで行く過程で、将来専門職として必要な専門領域に関する知識を学び理解することを目的とします。その中で医学的リハビリテーションの中心である理学療法や作業療法を実施するための必要な知識を習得します。

★仕上がり像

- 1 リハビリテーションの概念と関係職種の連携のあり方を説明することができる。
- 2 リハビリテーションの対象疾患となるリハビリテーション・アプローチを説明することができる。

●授業内容

1	リハビリテーションの概念
2	リハビリテーションの理念と定義
3	健康と病気の概念と障害のとらえ方
4	病気と障害分類
5	医学的リハビリテーションの専門職
6	チーム医療と専門職の役割
7	障害と評価・記録
8	ADLとQOL
9	急性期リハビリテーション
10	回復期リハビリテーション
11	生活期リハビリテーション
12	地域リハビリテーション
13	社会保障制度の概要
14	各種疾患のリハビリテーション
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、平常点等で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：椿原彰夫 編著「リハビリテーション総論 改訂第2版」(診断と治療社、2011)
 上好昭孝 他 編著「リハビリテーション概論 改訂第3版」(永井書店、2014)

●履修へのアドバイス

授業内容を自分なりにノートにまとめてください。

生命倫理 (全 15 回)	作業療法士科		1 年	通年
	担当教員	村松 哲夫		

●授業概要

★この授業のねらい

生命科学分野は今や多岐に渡り、それぞれにおける発展は目覚ましいものがあります。一方で、従来の思考の枠組みでは扱い切れない問題がたくさんあります。だからといって、茫然自失になっているわけにはいきません。生命科学分野における多岐にわたる問題を我々はどのように考え、どのようにすべきなのかということを、自分たちの言葉で考え、学びます。それによって、医療者として求められる素養を涵養することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 医学部、看護学部と同水準の生命倫理学の基礎知識を身に付け、説明することができる。
- 2 生命倫理に関する具体的な問題を、すべてではないが、いくつか扱うことによって、問題点の具体像を述べることができる。
- 3 医療者の職業倫理について、生命倫理にまで遡って根本的に理解し、論じることができる。

●授業内容

1	自己紹介 オリエンテーション
2	生命倫理の基本構造
3	インフォームド・コンセント概論
4	インフォームド・コンセントと患者の自律性について
5	ケアと倫理
6	生殖補助医療
7	人工妊娠中絶と出生前診断、着床前診断
8	子どもの医療
9	高齢者医療と認知症
10	終末期医療と尊厳死
11	安楽死と医師による自殺幫助
12	脳死と臓器移植
13	遺伝子医療
14	再生医療
15	生命操作とロボット、脳と心・行動
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、レポート課題、および平常点等によって総合評価します。講義に関係する内容の質問や意見具申も平常点加点の対象とします。

●教科書・参考図書

教科書：霜田求編、「テキストブック 生命倫理」（法律文化社、2018）

必要に応じて、参考資料、プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

臨床に関する知識と倫理的知識・方法論を融合した高度な内容になるので、授業中の集中力の維持と復習に心がけてください。授業中の質問等は歓迎します。

作業療法概論 (全15回)	作業療法士科	1年	前期
	担当教員	中陳寿枝・菊地雅史・内山大輔・ 星有理香・箭内雅志	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法について基礎知識から、将来の課題まで全般を学習します。これから学ぶより専門的な知識や技能、作業療法の役割や理論の概略を捉え、今後の学習の基礎を身に付けます。一人の社会人として、作業療法士を目指す学生としての自覚を促し、学習への意欲へつなげることを目指します。

★仕上がり像

- 1 作業療法の概略や作業の意味を説明することができる。
- 2 医療・保健・福祉・教育の中における作業療法の役割について説明することができる。
- 3 作業療法の一連の過程について列挙することができる。
- 4 作業療法士に求められる資質と適性を理解し、述べるすることができる。

●授業内容

1	障害の捉え方 演習
2	障害の捉え方 発表
3	作業療法とは
4	人と作業療法の関わり
5	作業療法の歴史
6	作業療法の歴史
7	日常生活活動 ADL
8	手段的日常生活動作 IADL
9	身体障害・高次脳機能障害の作業療法と理論
10	精神障害の作業療法と理論
11	発達領域の作業療法と理論
12	高齢期・地域の作業療法と理論
13	人間作業モデル
14	日本作業療法士協会の定義
15	作業療法の課題と展望
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記試験90点、平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：長崎重信 監修「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法概論 改訂第2版」
(メジカルビュー社、2015)

●履修へのアドバイス

課題を必ずやってきてください。自分なりの課題を持って臨めば、学べることは増えます。最終回の頃には「自分の目指す作業療法士」が描けるように振り返りながら取り組んでください。

基礎作業学 (全15回)	作業療法士科	1年	通年
	担当教員	中陳 寿枝・菊地 雅史 内山大輔・星有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

「作業」とは作業療法の中核的な概念です。しかし、作業療法のために「作業」が存在するのではなく人間の本質として「作業」は存在します。人間が生きていることが「作業」とどのように関係しているのか、深めていくことがこの授業の目的です。

★仕上がり像

- 1 人間と作業の関連性や作業の特性を説明できる。
- 2 作業を包括的に分析することができる。

●授業内容

1	作業療法士における作業
2	障害体験 車椅子
3	障害体験 片麻痺
4	身体障害領域の作業活動
5	精神障害領域の作業活動
6	発達障害領域の作業活動
7	老年期障害の作業療法
8	作業分析 包括的作業分析シート
9	作業分析 折り紙の作業分析
10	作業分析 塗り絵の作業分析
11	作業分析 包括的作業分析シートの活用
12	道具と技術 道具の名称
13	道具と技術 道具の使い方
14	道具と技術 材料の名称
15	作業種目と疾患
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験90点・平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：浅沼辰志 編集「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改訂第2版」
(メジカルビュー社、2015)
参考図書：山根 寛 著「ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版」
(三輪書店、2015)

●履修へのアドバイス

講義、演習など、どのような場面でも自分の意見を積極的に表現し、他者の意見を大切にしましょう。「教えてもらおう」という意識ではなく、「学ぶ」という意識で取り組みましょう。

基礎作業学演習 (全30回)	作業療法士科	1年	通年
	担当教員	中陳寿枝・菊地雅史・内山大輔・ 星有理香・箭内雅志	

●授業概要

★この授業のねらい

作業とは、人の生活や一生を構成する全ての行為・行動の形態といえます。作業を治療援助手段として用いるには様々な作業の基礎を理解する必要があります。本科目では作業療法場面で多く用いられる作業活動やADL・IADL活動の演習を通じて包括的な作業の分析を行うための視点や考え方を習得します。

★仕上がり像

- 1 各種作業活動を分析する視点を持ち、説明と報告ができる。
- 2 各種作業活動の実施方法を説明することができる。
- 3 物品管理・環境整備を行うことができる。

●授業内容

1	ネット手芸（適応・準備・行程）	16	作業活動指導法（身体障害）
2	ネット手芸（実技）	17	作業活動指導法（精神障害）
3	園芸（適応・準備・工程）	18	羊毛フェルト（準備・工程）
4	園芸（細分化した作業工程）	19	羊毛フェルト（実技・仕上げ）
5	皮革工芸（適応・準備・工程）	20	ビーズ細工（準備・工程）
6	皮革工芸（作業工程・実技）	21	ビーズ細工（実技・仕上げ）
7	皮革工芸（実技・仕上げ）	22	編み物（準備・工程）
8	車椅子演習（1）	23	編み物（実技・仕上げ）
9	車椅子演習（2）	24	籐工芸（準備・工程）
10	公共交通機関利用（地下鉄）	25	籐工芸（実技・仕上げ）
11	公共交通機関利用（バス）	26	レクリエーション（精神障害）
12	買い物（デパート）	27	レクリエーション（老年期障害）
13	買い物（スーパー）	28	家事活動 掃除
14	調理（通常調理）	29	家事活動 洗濯
15	調理（座位での調理）	30	家事活動 ゆきかき
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験50点、提出物（包括的作業分析シート）40点、平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：浅沼辰志 編集「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改訂第2版」
（メジカルビュー社、2015）
参考図書：山根 寛 著「ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版」
（三輪書店、2015）

●履修へのアドバイス

基礎作業学の知識が必要になります。しっかりと予習復習をしてください。分析の視点をもって授業に臨んでください。

身体障害作業療法評価学 (全15回)	作業療法士科	1年	通年
	担当教員	黒澤 辰也・内山 大輔・ 菊地 雅史・星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、各種評価方法の基礎技法・各種評価方法によって得られたデータの解釈等を学びます。

★仕上がり像

- 1 各種評価方法の基礎技法について説明することができる。
- 2 各種評価方法によって得られたデータを解釈・整理し、説明することができる。
- 3 治療計画立案のためのデータを整理・解釈し、説明することができる。

●授業内容

1	評価学オリエンテーション・観察・面接講義
2	形態測定、バイタル測定
3	関節可動域検査（上肢）
4	関節可動域検査（手指）
5	関節可動域検査（頸部）
6	関節可動域検査（体幹）
7	関節可動域検査（下肢）
8	関節可動域検査（足部）
9	徒手筋力検査（上肢）
10	徒手筋力検査（手指）
11	徒手筋力検査（頸部）
12	徒手筋力検査（体幹）
13	徒手筋力検査（下肢）
14	徒手筋力検査（足部）
15	深部腱反射・病的反射
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記50点、実技40点、平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：能登真一・他 編集「標準作業療法学 作業療法評価学」第3版（医学書院、2017）
津山直一 訳「新・徒手筋力検査法 原著第9版」（協同医書出版、2014）
青木隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術－上肢」
（メジカルビュー社、2011）
青木隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術－下肢・体幹」
（メジカルビュー社、2011）
参考図書：田崎義昭・斎藤佳雄 著「ベッドサイドの神経の診かた 第18版」（南山堂、2016）

●履修へのアドバイス

1回の授業で複数の教科書を使用します。
DVDが付いているものは授業前に見ておくとう理解が深まると思います。

身体障害作業療法評価演習Ⅰ（全15回）	作業療法士科		1年	通年
	担当教員	黒澤 辰也・箭内 雅志 内山 大輔・星 有理香		

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは、目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、そのための各種評価方法の基礎技法の正確な実施方法を学びます。

★仕上がり像

- 1 各種評価方法の基礎技法を正確に実施することができる。
- 2 各種評価方法によって正確なデータを得ることができる。

●授業内容

1	筋緊張検査
2	感覚検査（表在感覚）
3	感覚検査（深部感覚）
4	片麻痺機能検査（上肢・手指）
5	片麻痺機能検査（下肢）
6	協調性検査
7	姿勢評価
8	姿勢反射検査
9	高次脳機能障害総論
10	高次脳機能障害（失語）
11	高次脳機能障害（構音障害）
12	移乗
13	日常生活活動評価
14	評価の統合について
15	評価結果からの問題点の抽出について
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記40点、実技50点、平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：能登真一・他 編集「標準作業療法学 作業療法評価学」第3版（医学書院、2017）
津山直一 訳「新・徒手筋力検査法 原著第9版」（協同医書出版、2014）
青木隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術－上肢」（メジカルビュー社、2011）
青木隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術－下肢・体幹」（メジカルビュー社、2011）
参考図書：田崎義昭・斎藤佳雄 著「ベッドサイドの神経の診かた 第18版」（南山堂、2016）

●履修へのアドバイス

1回の授業で複数の教科書を使用します。
DVDが付いているものは授業前に見ておくとう理解が深まると思います。

発達障害作業療法評価学 (全15回)	作業療法士科	1年	後期
	担当教員	星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

成長・発達する時期の子どもたちを捉えていくことはとても難しいことです。また、対象とする年齢によっては、親を含む家族への育児・環境の評価の比重が大きくなります。視野を広げ、子どもたちが子どもらしく生きていくための評価とは何かについて学びます。

★仕上がり像

- 1 評価の意味を述べることができる。
- 2 発達の過程を説明することができる。
- 3 観察評価・面接評価を実施できる。
- 4 適切な評価方法を選択することができる。
- 5 基本的な発達検査を実施できる。

●授業内容

1	オリエンテーション・面接評価
2	発達過程（原始反射と姿勢反応）
3	発達過程（0～6か月児の発達）
4	発達過程（7か月～1歳半児の発達）
5	発達過程（1歳7か月～5歳児の発達）
6	発達過程（遊びの発達）
7	発達過程（ADLの発達）
8	脳性まひ児の評価
9	神経発達障害児の評価
10	重症心身障害児（者）の評価
11	摂食評価
12	発達検査の目的
13	発達検査の実施
14	評価計画の立案
15	評価結果の解釈と目標設定
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）・平常点（20点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岩崎清隆 「発達障害の作業療法 基礎編 第2版」（三輪書店、2015）
 岩崎清隆，岸本光夫 「発達障害の作業療法 実践編 第2版」（三輪書店、2015）
 能登真一・他 編集「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」
 （医学書院、2017）
 参考図書：福田恵美子 編集「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版」
 （医学書院、2014）

●履修へのアドバイス

小児期は誰もが通ってきた身近な分野です。身体障害・精神障害・老年期障害のどの分野でも基本になるのは発達です。他の科目と関連づけるよう意識してください。教材として動画を使用する時には、予習復習として動画の閲覧をしてください。

精神障害作業療法評価学 (全15回)	作業療法士科	1年	後期
	担当教員	中陳 寿枝・菊地雅史	

●授業概要

★この授業のねらい

心を病む人々に対する評価とは、精神機能の障害としての精神症状だけでなく、それをもたらす精神疾患の成因や治療を踏まえて、対象者の精神的かつ社会的存在としての「人間」を深く理解することです。

この授業では、作業療法で援助していくためにどのような視点や方法を持って「人間」を理解していくのか、また心を病む人々に対する作業療法の枠組みとはどのようなものを学びます。

★仕上がり像

- 1 精神障害作業療法評価とは何かを述べるができる。
- 2 精神障害作業療法評価の項目と目的を説明することができる。
- 3 対象者に合わせた面接技法を用いて、情報収集することができる。
- 4 観察の視点を整理し述べるができる。

●授業内容

1	評価とは
2	情報収集
3	情報収集演習
4	面接評価法
5	面接評価演習
6	観察とは
7	ウォッチングリストを用いた観察
8	日常生活機能観察リストを用いた観察
9	対人パターンチェックリストを用いた観察
10	作業遂行機能評価表を用いた観察
11	社会参加能力観察リストを用いた観察
12	観察評価 個人観察
13	観察評価 個人観察発表
14	観察評価 集団
15	観察評価 集団観察発表
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）授業内課題提出（10点）平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：山根寛 著「精神障害と作業療法 第3版」（三輪書店、2010）

●履修へのアドバイス

資料を配付しますので、A4サイズの2穴ファイルを各自用意してください。授業内ではグループワークや発表を行うこともあります。積極的に発言し相手の意見を聞いて考えを深めましょう。

老年期障害作業療法評価学 (全 15 回)	作業療法士科	1 年	通年
	担 当 教 員	中陳 寿枝・箭内 雅志	

●授業概要

★この授業のねらい

日本の高齢化は急速に進み、高齢者を対象とした作業療法への期待は非常に高まっています。超高齢社会へ急速に移行していく中で、作業療法の需要は増え続けています。

高齢者は、加齢・老化とともに心身の機能が低下していきます。加えて、複数の疾患を合併していることも多く、その治療には多種多様な知識と技術を必要とします。

この授業では高齢者の身体機能や認知機能の理解とその作業療法実践に必要な評価法を学習します。

★仕上がり像

- 1 高齢者の心身機能の変化及び老年期障害について説明できる。
- 2 老年期障害における各種作業療法評価を実施できる。
- 3 高齢障害者に対して多角的な視点をもって、観察・評価ができる。

●授業内容

1	老年期とは、老化とは
2	心身の変化（身体機能：感覚器）
3	心身の変化（身体機能：運動器）
4	心身の変化（呼吸機能）
5	心身の変化（血液・循環機能）
6	心身の変化（消化・排泄機能）
7	心身の変化（精神機能）
8	高齢者体験（歩行・階段昇降）
9	高齢者体験（ADL）
10	高齢者体験（IADL）
11	高齢者体験（レクリエーション）
12	認知機能検査（スクリーニング検査）
13	認知機能検査（知能）
14	認知機能検査（注意機能・前頭葉機能）
15	認知機能検査（その他）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(90点)、平常点(10点)により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：大内尉義 編集「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版」(医学書院2014)
 守口恭子 編集「高齢期における認知症のある人への作業療法 第2版」(三輪書店 2017)
 能登真一・他 編集「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」(医学書院 2017)
 参考図書：田村考司 編集「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学」
 (メジカルビュー社 2016)

●履修へのアドバイス

配付資料が多くなりますので、各自で2穴ファイルを準備して保管してください。
 ポイントを整理しながら授業を進めるので、必ず予習と復習を実践してください。
 高齢者の特性を踏まえてほかの授業との関連性を持ち、授業を受けてください。

地域リハビリテーションⅠ（全15回）	作業療法士科	1年	通年
	担当教員	箭内 雅志・菊地 雅史・星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

最近の医療情勢では、早期退院・在宅復帰率向上・住み慣れた地域での生活を求める流れになっています。一方では、超高齢社会に伴う介護困難者の増加とサービス不足が懸念されています。

本授業では、地域リハビリテーションの基礎知識に加えて、「小児から高齢者」「身体障害から精神障害領域」のリハビリテーション関係者・家族など他者との連携・ネットワーク、チームアプローチについて理解することを目的としています。

★仕上がり像

- 1 地域リハビリテーションに関して理解を深め、地域で暮らす障害者や高齢者の関わりを考察、し説明できる。
- 2 地域リハビリテーションの基礎となる関連法規や制度の概略を説明できる。

●授業内容

1	地域リハビリテーションとは
2	関連法規と制度
3	介護保険制度（概要とシステム）
4	介護保険制度（各種サービス）
5	障害者総合支援法（概要と各種サービス）
6	各事業所の実際（グループワーク）
7	各事業所の実際（発表）
8	精神障害領域における地域医療
9	発達障害領域における地域医療
10	リスク管理
11	住宅改修と福祉用具
12	家族の理解と介護
13	多職種連携とチームアプローチ
14	地域包括ケアシステム
15	事例検討・発表
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(70点)・課題レポート(20点)・平常点(10点)を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：徳永千尋 編集「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学」
（メジカルビュー社、2016）
参考図書：太田睦美 編集「作業療法学全書 改定第3版 地域作業療法学」
（協同医書出版社、2009）
小川恵子 編集「標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第2版」（医学書院、2012）

●履修へのアドバイス

グループディスカッションなどを多く取り入れます。G1exaを使用した「事前学習」とグループ学習中の「他者の意見に耳を傾け、自らの意見を交えて、話し合う」という事を意識して積極的に授業に参加してください。

臨床実習Ⅰ（見学）	（４５時間）	作業療法士科	1年	後期
		担当教員	各臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

リハビリテーション専門職を目指す学生として、基礎医学分野や専門分野の基礎的な領域の学習が一段落した段階において、実際の臨床現場を見学します。

医療現場の見学やリハビリテーションを中心とした治療の見学、リハビリテーションスタッフによる一連の医療活動全般の見学およびチームアプローチの実際を体験します。

★仕上がり像

- 1 社会人・専門職としての望ましい態度や行動をとることができる。
- 2 保健医療の専門職として、指導者や対象者とのコミュニケーションをとることができる。
- 3 専門職として将来にわたり学習する基盤、意欲を持つことができる。
- 4 チーム医療における理学療法士、作業療法士の役割を把握することができる。
- 5 対象疾患・障害について幅広く見学し、学修した基礎知識と関連づけることができる。

●授業内容

オリエンテーションと施設内見学 リハビリテーション臨床現場の見学 リハビリテーション他部門の見学 臨床現場の見学・各種会議の見学 臨床現場の見学・レポート提出、指導 臨床実習Ⅰ課題提出 反省会・最終評価 ※見学報告会の開催（学内）			
--	--	--	--

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による評価と見学報告会の内容等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

臨床実習指導者と連絡をとり、必要と思われる参考図書や知識を事前にそろえておきましょう。

●履修へのアドバイス

実習前の、学内オリエンテーションでの指導を必ず守ってください。

実習中は、社会人としての意識をもって行動しましょう。

遅刻・早退や欠席の場合は、必ず事前に連絡しましょう。

臨床実習指導者には、常に「報告」「連絡」「相談」を心がけて下さい。

2019年度 作業療法士科2年 履修科目一覧

授業科目	区分	2年次		合 計 時間数
		前期	後期	
ソーシャルスキルⅡ	演習	30		30
身体運動機能学実習	実習	30	15	45
運動学演習	演習	30		30
病理学概論	講義	15	15	30
内部障害学Ⅱ	講義	30		30
神経障害学Ⅱ	講義	30		30
発達障害学	講義	15	15	30
運動器障害学	講義	30		30
精神障害学	講義	30		30
人間工学	講義	15	15	30
作業療法総合演習	演習	15	15	30
身体障害作業療法評価演習Ⅱ	演習	15	15	30
精神障害作業療法評価演習	演習	30		30
身体障害作業療法学	講義	15	15	30
身体障害作業療法演習	演習	15	15	30
精神障害作業療法学	講義	15	15	30
精神障害作業療法演習	演習	15	15	30
老年期障害作業療法学	講義	30		30
老年期障害作業療法演習	演習	15	15	30
高次脳機能障害作業療法学	講義	15	15	30
発達障害作業療法学	講義	15	15	30
発達障害作業療法演習	演習	15	15	30
日常生活活動学	講義	15	15	30
日常生活活動学演習	演習	15	15	30
装具関連作業療法演習	演習		30	30
地域リハビリテーションⅡ	実習	30	15	45
生活環境学	講義	15	15	30
臨床実習Ⅱ(評価)	実習		135	135

※科目名をクリックするとシラバスページへジャンプします。

ソーシャルスキルⅡ (全15回)	作業療法士科	2年	前期
	担当教員	中陳 寿枝	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法士にとって、医学知識や作業療法の技術とともに重要なのが対人スキルです。対象者や職場スタッフと円滑な人間関係を築く為には、自己を受容し自己肯定感を高めること、他者を受容し他者への恐れを取り払うことが大切です。また作業療法士は医療人として「演じる」ことが求められます。

この授業では五感を働かせ、想像・創造・伝達を通し自己を表現すること、他者の想いを汲み取ること、チームワークを身に着けることを学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 自分の創造を全身で表現することができる。
- 2 自分の意見や考えを他者に伝えることができる。
- 3 他者と協働し創造することができる。
- 4 作業療法士が「表現」を学ぶ事の重要性を述べることができる。

●授業内容

1	身体表現（ボール・パートナー探し）
2	身体表現（勇気・穴埋め・1人-2人-3人）
3	身体表現（魔王のバトン）
4	身体表現（喜怒哀楽）
5	シナリオ作成（読み込み）
6	シナリオ作成（環境）
7	シナリオ作成（音楽）
8	シナリオ作成（動き）
9	演劇演習（セリフ）
10	演劇演習（セット）
11	演劇演習（音楽）
12	演劇演習（ムーブメント）
13	演劇演習（総合）
14	発表（1）
15	発表（2）

●成績評価のしかた

レポート（80点）、平常点（20点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

なし

●履修へのアドバイス

- ・動きやすい服で出席すること。
- ・上手、下手ではなく伝える事を大切にしてください。
- ・「表現」は記憶と結びつき、学習にも良い効果をもたらすと考えられる為、怖がらず表現することの成功体験を積んでいきましょう。
- ・毎時間感想レポートを記載して提出するのでA4ファイルを用意してください。

身体運動機能学実習 (全23回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	内山 大輔 他	

●授業概要

★この授業のねらい

1年次の「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「身体運動機能学」および「運動学」を基に人体の機能構造と作用の知識定着を目的とします。人体の機能構造等の既習内容を深め、模型、触診等から人体に投射し、同定することを学習します。さらにご献体による解剖実習を通して、人体の機能構造における作用について知識を深め、理学療法評価・治療の基礎知識との関連性を学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 人体の機能構造と作用を把握し、説明ができる。
- 2 体表（触診）から骨・筋等が同定できる。
- 3 解剖実習（ご献体と接すること）を通して、生命の尊さと人間の尊厳について理解し、論じることができる。

●授業内容

1	頭蓋骨・脊柱の機能構造	16	学外実習（呼吸器系の確認）
2	脳、脳神経の機能構造	17	学外実習（泌尿器系の確認）
3	脊髄の機能構造	18	学外実習（中枢・末梢神経系の確認）
4	脳、脳神経、脊髄の機能構造のまとめ	19	学外実習（頸部、体幹の骨・筋の確認）
5	腕神経叢・上腕筋 肩関節の機能構造	20	学外実習（上肢の骨・筋の確認）
6	腕神経叢・上腕筋 肘・手関節の機能構造	21	学外実習（下肢の骨・筋の確認）
7	腰神経叢・下肢筋 股関節の機能構造	22	触診（頸部と上肢の骨・筋）
8	仙骨神経叢・下肢筋 膝関節の機能構造	23	触診（体幹と下肢の骨・筋）
9	仙骨神経叢・下肢筋 足関節の機能構造		
10	上肢・下肢機能構造のまとめ		
11	胸腔内の機能構造		
12	腹腔内の機能構造		
13	胸・腹腔内の機能構造のまとめ		
14	学外実習（消化器系の確認）		
15	学外実習（循環器系の確認）		

●成績評価のしかた

課題提出、平常点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：野村嶺 編集「標準PTOT 専門基礎分野 解剖学 第4版」（医学書院、2015）
平田幸男 訳「解剖学アトラス 第10版」（文光堂、2013）
参考図書：川口浩太郎「触診解剖アトラス 頸部・体幹・上肢 第2版」（医学書院、2007）
川口浩太郎「触診解剖アトラス 下肢 第2版」（医学書院、2007）
相磯貞和 訳「ネッター解剖学アトラス 原書第6版」（南江堂、2016）
林典雄 著「運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 第2版」
（メジカルビュー、2011）
林典雄 著「運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹 第2版」
（メジカルビュー、2011）

●履修へのアドバイス

人体の機能構造と作用等を理解し、ご献体による解剖実習を通して知識を統合してください。また、模型、触診等から骨・筋を同定することは理学療法評価の一助となるので、主体的に授業に臨みましょう。

運動学演習 (全15回)	作業療法士科	2年	前期
	担当教員	黒澤 辰也	

●授業概要

★この授業のねらい

運動学で学習したことを基本に、日常生活で使用する身体運動の分析について学びます。身体運動時どのような関節運動、重心変化が起こるのか、重力や外力の影響を観察によって評価するための基本事項を中心として、実際に身体動作を観察し分析しながら学習を進めていきます。

★仕上がり像

- 1 日常生活で使用する身体運動の多角的観察方法を説明実施できる。
- 2 身体運動観察から外力・重力の影響を考慮し関節運動・筋活動・重心変化等を考察できる。
- 3 他者に対して、考察結果を明確に説明することができる。
- 4 観察事項・考察の結果を簡潔な文章で記載することができる。

●授業内容

1	分析の基礎
2	臥位・座位における姿勢分析ポイント
3	座位・立位における姿勢分析ポイント
4	姿勢分析と作業・動作・運動分析
5	動作分析と運動分析
6	動作分析実施上のポイント
7	動作分析演習：起き上がり（仰臥位⇄端座位）
8	動作分析演習：立ち上がり（端座位⇄立位）
9	動作分析演習：立ち上がり（床座位⇄立位）
10	動作分析演習：寝返り（仰臥位⇄腹臥位）
11	動作分析演習：背臥位⇄起き上がり⇄立位（ベッド）
12	動作分析演習：背臥位⇄起き上がり⇄立位（床上）
13	動作分析演習：移乗動作（ベッド⇄車いす）
14	動作分析演習：歩行動作
15	日常生活活動における運動分析の必要性
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記40点、レポート50点、平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著「基礎運動学 第6版 補訂」（医歯薬出版、2012）

●履修へのアドバイス

1年次の身体運動機能学Ⅰ、身体運動機能学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、運動学の知識が必要です。各教科で使用した教科書・参考図書をよく読んで復習しておくことが理解への近道です。

病理学概論 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	曾我部 いづみ	

●授業概要

★この授業のねらい

各系統の疾患に共通の病気の基本概念、病気の本態、原因と成り立ち、経過、転帰などについて、わかりやすく解説します。病変は遺伝子から始まり、細胞、組織の変化へと移り変わります。病的な変化が生体の細胞・組織にどのように生じ、どのような経過をたどって疾病が形成されるか、基本的な概念を学習します。

★仕上がり像

- 1 病変を示す用語とその内容について代表的なものを説明することができる。
- 2 代表的な疾患の病理学的認識を深め、説明することができる。
- 3 主な疾患の病態から回復機構について説明することができる。

●授業内容

1	病理学概論と疾病の一般
2	細胞障害(退行性病変と進行性病変)
3	細胞障害(代謝障害と疾病)
4	老化
5	循環障害(概要と局所循環障害)
6	循環障害(局所循環障害)
7	循環障害(全身循環障害)
8	炎症・感染症(炎症のメカニズムと身体への影響)
9	炎症・感染症(感染症の成立、炎症の分類等)
10	免疫(免疫の概念、免疫に関与する因子・細胞)
11	免疫(免疫反応がもたらす傷害・疾患)
12	腫瘍(腫瘍の定義、形態、良性と悪性腫瘍、命名と分類、悪性腫瘍の進展様式)
13	腫瘍(悪性腫瘍の病期、進行度、悪性腫瘍の疫学、原因等)
14	先天異常・奇形(先天異常とは、遺伝性疾患と染色体異常)
15	先天異常・奇形(奇形の原因・成立時期、環境要因、奇形の種類)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、平常点を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：横井 豊治、村雲 芳樹 編集
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版」
(医学書院、2017)

●履修へのアドバイス

病理学を学ぶためには、解剖学と生理学の知識が必須です。理解できないことがあったら、まずは解剖生理学に戻り、その後、テキストや教科書を読んで理解するように努めてください。授業は、専門用語が多く、スピードも速いので、病気を知るという心構え・興味を持ってついてきてください。

内部障害学Ⅱ	(全15回)	作業療法士科	2年	前期
		担当教員	沖田 孝一	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床において経験すると思われる代表的な内科疾患について、その病態、症状、治療について学びます。また、内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、その実践に応用できるように知識を習得することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 代表的な内科疾患の基礎病態を把握し、説明することができる。
- 2 病態と合併症の関連性を説明できる。
- 3 各疾患の治療について説明できる。
- 4 退行性変化および加齢性の変化について説明することができる。

●授業内容

1	消化器疾患（胃疾患、小腸疾患）
2	消化器疾患（大腸疾患総論）
3	肝胆膵疾患（肝・胆・膵の構造と機能）
4	肝胆膵疾患（症候とその生理、肝臓疾患）
5	肝胆膵疾患（胆道疾患、膵疾患）
6	血液疾患（血液の形態と機能）
7	血液疾患（貧血、白血病、出血性疾患）
8	代謝性疾患（代謝調節 肥満症 糖尿病）
9	代謝性疾患（脂質異常症、痛風、骨粗鬆症）
10	内分泌疾患（内分泌腺とホルモンの働き）
11	内分泌疾患（内分泌疾患各論）
12	腎泌尿器疾患（腎の構造と機能 水・電解質代謝）
13	腎泌尿器疾患（腎疾患 尿路系の疾患）
14	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全など
15	老化と高齢者 加齢に伴う形態的・機能的変化
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験と平常点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：前田眞治 他 著「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 内科学 第3版」
 (医学書院、2014)
 参考図書：大内尉義 編集「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 老年学 第4版」
 (医学書院、2014)

●履修へのアドバイス

内部障害学は臨床医学の基本です。解剖学、生理学、病理学と関連づけて学習しましょう。

神経障害学Ⅱ	作業療法士科		2年	前期
	担当教員	内山 大輔・山本 ともみ 星 有理香・箭内 雅志・鈴木 暁		

●授業概要

★この授業のねらい

中枢神経疾患の各障害について学びます。それぞれの障害が発現する疾患と対応させながら、よりリハビリテーション評価やリハビリテーション治療に結びつための知識を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 中枢神経系各部位の構造・機能と神経症状・症候群を関連づけることができる。
- 2 各疾患・症候群の特徴を挙げ、発症要因や病態、出現する症候について説明ができる。
- 3 代表的な疾患・症候群の医学的治療方法について説明ができる。

●授業内容

1	中枢神経系の解剖と機能、神経学的診断と評価
2	中枢神経疾患の画像所見
3	意識障害
4	感覚障害
5	運動障害（錐体路障害）
6	運動障害（錐体外路障害）
7	運動失調
8	認知症
9	失語症・構音障害
10	嚥下障害
11	注意障害・遂行機能障害
12	記憶障害
13	失認
14	半側空間無視
15	失行
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験・平常点により総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：川平和美 編集「標準理学療法・作業療法 神経内科学 第4版」（医学書院、2013）
医療情報科学研究所 編集「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」（MEDIC MEDIA社、2012）
参考図書：吉尾雅春 編集「標準理学療法学専門分野 神経障害理学療法学」（医学書院、2013）

●履修へのアドバイス

様々な障害について、覚えることが非常に多い分野です。常に予習復習を心掛け、疑問点などはその場で解決するよう積極的に質問をするよう心がけてください。

発達障害学 (全 15 回)	作業療法士科	2 年	通年
	担当教員	星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

小児発達と小児期の疾患の概要について学び、発達障害の原因と成り立ちを理解するとともに、小児を対象としたリハビリテーションを行う上での基本的な知識を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 小児の生理学的、病理学的特徴と、発達に伴う変化について説明できる。
- 2 小児期疾患の診断と治療についての基礎的な知識を身につけ、説明できる。
- 3 小児期の代表的な疾患について、病態・臨床症状・治療の説明ができる。

●授業内容

1	発達障害学概論		
2	診断と治療の概要		
3	新生児・未熟児疾患・分娩麻痺		
4	先天異常と遺伝病		
5	脳性麻痺		
6	進行性筋ジストロフィー		
7	筋炎・重症筋無力症・ミオパシー		
8	感染症・自己免疫疾患・アレルギー		
9	脊髄性筋萎縮症・脊髄小脳変性症		
10	呼吸・循環・消化器の代表的疾患		
11	内分泌・泌尿器・血液の代表的疾患・腫瘍		
12	小児てんかん		
13	神経発達障害		
14	重症心身障害		
15	小児整形疾患		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、平常点（20点）から総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：富田 豊 編集「標準理学療法・作業療法学 小児科学 第5版」（医学書院、2018）

●履修へのアドバイス

様々な障害について、覚えることが多い分野です。授業内で出る教員の話は積極的にメモを取ってください。人間発達学、内部障害学、神経障害学と関連付けながら学習してください。資料を配布するので、A4ファイルを各自用意してください。

運動器障害学	(全15回)	作業療法士科	2年	前期
		担当教員	富永 淳	

●授業概要

★この授業のねらい

整形外科疾患のリハビリテーションを行う上での、基礎科学、診断学、治療学、疾患総論を基礎として学び、リハビリテーション治療に応用できる知識を習得します。

★仕上がり像

- 1 運動器障害の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の基礎から、その機能や病態との関係を理解し、説明することができる。
- 2 整形外科疾患の診断および治療からリハビリテーションに至る流れを理解し、説明することができる。
- 3 代表的な整形外科疾患のアプローチ方法を理解し、リハビリテーションを行う上での、評価や治療に活かせる知識について説明することができる。

●授業内容

1	整形外科の基礎科学診断総論・治療総論
2	疾患総論（関節リウマチとその類縁疾患）
3	疾患総論（代謝性骨疾患・骨腫瘍・先天異常）
4	疾患総論（循環障害）
5	疾患各論（上肢・下肢）
6	疾患各論（胸椎・腰椎）
7	外傷学：脊椎損傷・末梢神経損傷
8	骨折総論・上肢の骨折
9	下肢の骨折、体幹の骨折
10	脱臼と捻挫・靱帯損傷
11	変形性関節症（膝・股関節）
12	変形性関節症（脊椎）
13	高齢者によく見られる疾患
14	スポーツ障害
15	整形外科疾患のリハビリテーション（総括）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（90点）、平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：中村利孝 他 著「標準整形外科学 第13版」（医学書院、2017）

●履修へのアドバイス

情報量が非常に多い科目です。授業後にノートをまとめるなど常に復習を心がけてください。

精神障害学 (全15回)	作業療法士科	2年	前期
	担当教員	中陳 寿枝・菊地雅史・星有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

統合失調症や気分障害など、精神疾患は慢性に経過するものが多く、ほとんどすべてが作業療法の対象となります。長期入院が当たり前だった以前の精神科医療から、患者様が地域で生活し働きながら自立した生活を送ることが当たり前となりつつある今、作業療法士が精神科医療で活躍することが今まで以上に期待されています。本科目では作業療法の評価や治療を行い患者様の回復を図る上で必要となる精神疾患の病態や症状など基礎知識の習得を目的とします。

★仕上がり像

- 1 精神医学臨床一般について説明することができる。
- 2 主要な精神疾患の症状や病態について説明することができる。

●授業内容

1	精神機能の障害と精神症状		
2	統合失調症の病態		
3	統合失調症の関わり		
4	気分障害の病態		
5	気分障害の関わり		
6	発達障害の病態		
7	発達障害の関わり		
8	てんかんの病態		
9	てんかんの関わり		
10	神経症性障害		
11	摂食障害		
12	パーソナリティ障害		
13	精神作用物質依存障害		
14	薬物療法とは		
15	精神鑑定と精神医療関連の法制度		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（90点）平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：上野武治 編集「標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版」（医学書院、2015）

参考図書：上島国利・他 編集「精神医学テキスト 第4版」（南江堂、2017）

●履修へのアドバイス

授業内で出る教員の話積極的にメモを取り、理解の助けとしてください。資料はA4ファイルにまとめて整理してください。

人間工学	(全15回)	作業療法士科	2年	通年
		担当教員	和田 龍彦	

●授業概要

★この授業のねらい

人が何かの目的で行動を起こそうとするとき、必要な道具や物を自由に使うことができ、事故のない安全かつ効率の良い動作環境が必要となります。生体医用工学と安全工学の知識を利用して生体情報の検出や情報処理を行い、また治療機器などの保守管理を習得して機器の安全性を確認することはリハビリテーション分野の医療人にとって重要課題です。授業の前編部では、人の動作や運動と周囲に存在する道具との関わり合いと人体の物性的特徴や生理学的機能を習得します。中編部では生体情報の検出構成とその測定原理ならびに現用医療機器の動作原理を学習します。後編部では医療設備や医療環境の整備および安全管理を学び、最新医療機器の現状把握と問題点の摘出法を習得します。

★仕上がり像

- 1 医学と工学の関係を説明できる。
- 2 医学諸量の物性的内容の説明ができる。
- 3 主要な生体計測機器や治療機器などの概説ができ、新計測法の提案や考察もできる。

●授業内容

1	人の概観と定量的捉え方
2	力と動作と運動量
3	体力と代謝と運動
4	人体の構造と機能
5	生体物性と医療材料
6	生体計測の基礎
7	心電位と心電図
8	血圧と血流
9	脳波と筋電図と呼吸計測
10	音と聴力と超音波診断
11	ペースメーカーとAEDとFES
12	最先端の医療技術
13	医療設備の安全と管理
14	医用ガスと消毒および感染防止
15	負の環境因子；科学的負の遺産
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、平常点から総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：特定教科書はありません。各授業内容ごとにプリントを配付します。
参考図書：参考図書については担当教員が指示します。

●履修へのアドバイス

視聴覚教材を使用します。授業後にはノート内容をまとめるなどの復習をしてください。

作業療法総合演習 (全15回)	作業療法士科		2年	通年
	担当教員	黒澤 辰也・箭内 雅志・星 有里香 内山 大輔・中陳 寿枝・菊地 雅史		

●授業概要

★この授業のねらい

臨床実習Ⅱ（評価）を控えた作業療法学生として、臨床に必要な面接、各種検査測定、情報分析、統合・解釈、リスク管理など基本的な知識・技術の定着を目指します。

★仕上がり像

臨床実習Ⅱ（評価）を控えた作業療法学生として、臨床に必要な面接、各種検査測定、情報分析、統合・解釈、リスク管理など基本的な事項について説明及び実施できる。

●授業内容

1	オリエンテーション
2	医療面接
3	医療面接演習
4	基本姿勢・基本動作介助
5	基本姿勢・基本動作介助演習
6	リスク管理
7	リスク管理演習
8	身体障害領域における検査・測定(関節可動域、反射、筋力)
9	身体障害領域における検査・測定(片麻痺機能、遂行能力)
10	身体障害領域における検査・測定(高次脳機能、バイタル)
11	精神障害領域における評価(場面設定面接、作業観察)
12	精神障害領域における評価(LASMI、認知症スクリーニング)
13	精神障害領域における評価(POMS、陽性症状陰性症状評価尺度)
14	事例検討
15	実習記録(SOAP・サマリーシート)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(80点)、平常点(20点)を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

必要に応じて資料を配付します。

●履修へのアドバイス

これまでに学んできたことを再確認し、知識・技術を臨床の場で、正確に使うことができるように自分自身を向上させましょう。

身体障害作業療法評価演習Ⅱ（全15回）	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	黒澤 辰也、箭内 雅志、 内山 大輔、星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは、目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。

この授業では、そのための各種評価方法の基礎技法の正確な実施方法を学びます。

★仕上がり像

- 1 各種評価方法の基礎技法を正確に実施することができる。
- 2 各種評価方法によって正確なデータを得ることができる。

●授業内容

1	上肢機能検査（STEF・MFT）
2	上肢機能検査（Fugel Meyer・VAS）
3	上肢機能検査（MAL）
4	脳神経検査
5	熱傷の評価、治療原理
6	興味チェックリスト、役割チェックリスト
7	MOHO、COPM
8	脊髄損傷の評価（Zancolli、ASIA、デルマトーム）
9	神経難病の評価（ギランバレー症候群、重症筋無力症）
10	神経難病の評価（多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症）
11	呼吸器疾患の評価
12	循環器疾患の評価
13	身体機能障害の評価と治療原理（関節可動域）
14	身体機能障害の評価と治療原理（筋力）
15	身体機能障害の評価と治療原理（その他の機能）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、平常点（20点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：津山 直一 訳 「新・徒手筋力検査法 原著第9版」（協同医書出版、2014）
 田崎 義昭・斎藤 佳雄 著「ベッドサイドの神経の診かた 第17版」（南山堂、2010）
 岩崎テル子 編集「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」（医学書院、2017）
 青木 隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術―上肢」
 （メジカルビュー社 2011）
 青木 隆明 監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術―下肢・体幹」
 （メジカルビュー社 2011）

●履修へのアドバイス

1回の授業で複数の教科書を使用します。
 DVDが付いているものは授業前に見ておくとう理解が深まると思います。

精神障害作業療法評価演習（全15回）	作業療法士科		2年	前期
	担当教員	中陳 寿枝・菊地 雅史・星有理香		

●授業概要

★この授業のねらい

心を病む人々に対する評価とは、精神機能の障害としての精神症状だけでなく、それをもたらす精神疾患の成因や治療を踏まえて、対象者の精神的かつ社会的存在としての「人間」を深く理解することです。

この授業では作業療法で援助していくためにどのような視点や方法を持って「人間」を理解していくのか、実習をとおして学びます。

★仕上がり像

- 1 精神障害の代表的な疾患・障害を説明することができる。
- 2 障害像に対応した評価項目を選択し、実施することができる。
- 3 障害から考えられる問題点を抽出し、対象に合わせた目標を立てることができる。

●授業内容

1	統合失調症の評価とは
2	統合失調症の評価（情報収集）
3	統合失調症の評価（問題点抽出とICF）
4	統合失調症の評価（評価のまとめ・目標）
5	気分障害の評価とは
6	気分障害の評価（情報収集）
7	気分障害の評価（問題点抽出とICF）
8	気分障害の評価（評価のまとめ・目標）
9	発達障害の評価
10	神経症性障害の評価
11	摂食障害の評価
12	パーソナリティ障害の評価
13	精神作用物質依存障害の評価
14	精神障害領域の退院時評価
15	精神障害領域の職業能力評価
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、課題提出物（10点）、平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岩崎テル子 編集「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」（医学書院、2017）
上島 国利・他 編集「精神医学テキスト 改訂第4版」（南江堂、2017）

●履修へのアドバイス

資料を配付しますのでA4ファイルを各自用意してください。授業内ではグループワークや発表を行うこともあります。積極的に発言し、相手の意見を聞いて考えを深めましょう。また精神障害学の知識が重要ですので、予習を行ってから授業に臨みましょう。

身体障害作業療法学 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	阿部卓弥・中川健一・伊藤耕栄 伊勢健佑・非常勤講師	

●授業概要

★この授業のねらい

「作業療法評価学」や「運動器障害関連作業療法学」で学んだ関連事項をもとに、身体機能作業療法学の基礎を整理し、評価から治療の実施に至る作業療法過程を学んでいきます。
病期に応じ様々に変化する治療内容の違いや疾患特有の治療法などを、作業療法の実際を交えて学習していき、身体障害領域の作業療法の役割やその考え方を学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 評価から治療の実施に至る身体障害の作業療法過程を理解し、説明することができる。
- 2 身体障害作業療法における基本的治療原理を理解し、説明することができる。
- 3 疾患、時期、環境等の諸要因に応じた治療が選択でき、その治療内容を説明することができる。

●授業内容

1	骨・関節疾患の評価
2	骨・関節疾患の治療の視点と考え方
3	骨・関節疾患の治療の実際
4	末梢神経損傷の評価
5	末梢神経損傷の治療の視点と考え方
6	末梢神経損傷の治療の実際
7	整形疾患の作業療法まとめ
8	脊髄損傷の評価・治療の視点と考え方
9	脊髄損傷の治療の実際
10	リウマチ評価・治療
11	リウマチ評価・治療
12	循環器障害の評価・介入
13	循環器障害の評価・介入
14	呼吸器系評価・治療
15	呼吸器系評価・治療
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、平常点（20点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：菅原洋子 編集「作業療法学全書 作業治療学1 身体障害改訂 第3版 第4巻」
（協同医書出版社、2008）
参考図書：矢谷令子・福田恵美子 編集「作業療法実践の仕組み 第2版」（協同医書出版、2014）
神奈川リハビリテーション病院 脊損マニュアル編集委員会
「脊髄損傷マニュアル 第2版」（医学書院、1996）
長崎重信 編集
「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第2版」
（メジカルビュー社、2015）

●履修へのアドバイス

基礎医学で学んだ知識を基礎にして障害像を深く理解することが大切です。専門基礎分野の知識の定着をはかりながら、その基礎の上に作業療法独自の治療・援助方法を積み上げていってください。

身体障害作業療法演習 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	内山 大輔	

●授業概要

★この授業のねらい

身体障害領域の作業療法で代表的な疾患の評価・治療の実際を通し、身体障害領域に必要な作業療法治療の知識・技術の習得を目指していきます。その中では、臨床の場で実際どのような状況が想定され、どのように対応していくのか、より実践的な知識・技術の習得も目指していきます。

★仕上がり像

- 1 身体障害領域の作業療法における、評価から治療までの一連の流れを説明することができる。
- 2 基本的治療原理を理解し、疾患、環境等の諸要因に合わせた治療を選択、実施することができる。
- 3 身体障害領域の代表的な疾患から、各治療手技の目的・方法を理解し、実施することができる。

●授業内容

1	症例検討と治療計画立案（問題点抽出）
2	症例検討と治療計画立案（評価項目検討）
3	脳卒中の実際（急性期）
4	脳卒中の実際（回復期以降）
5	脳卒中片麻痺の統合と解釈
6	脳卒中片麻痺の治療の実際
7	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練
8	脳卒中片麻痺の手指機能訓練
9	脳卒中片麻痺の上肢・手指機能訓練演習
10	脳卒中片麻痺の症例検討
11	脳卒中片麻痺の症例検討 発表
12	脳卒中片麻痺の症例検討 ディスカッション
13	作業療法治療計画立案と症例検討
14	作業療法治療計画立案と症例検討 発表
15	作業療法治療計画立案と症例検討 ディスカッション
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（70点）、提出課題（20点）及び平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：菅原洋子 編集「作業療法学全書 作業治療学1 身体障害 改訂第3版 第4巻」
（協同医書出版社、2008）
参考図書：Patricia M.Davies 著・富田昌夫 監訳「ステップス・トゥ・フォロー 改訂第2版」
（シュブリンガー・フェアラク東京株式会社、2012）
柏木正好 著「環境適応—中枢神経系障害への治療的アプローチ 第2版」
（青海社、2007）
長崎重信 編集
「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第2版」
（メジカルビュー社、2015）

●履修へのアドバイス

基礎医学で学んだ知識を十分に活かして障害像を深く理解することが大切です。専門基礎科目の知識の定着をはかりながら、その基礎の上に作業療法独自の治療・援助方法を積み上げていってください。

精神障害作業療法学	(全 15 回)	作業療法士科	2 年	通年
		担 当 教 員	中陳 寿枝・菊地 雅史・星有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

精神障害の病態と心理状態を理解し、援助していくための作業療法の知識を学びます。精神障害に対して、臨床での作業療法が実施できるようになるために、精神障害者とのコミュニケーションのとり方や面接法、基本的な態度など作業療法の評価技術と評価を理解し、治療・援助の方法を習得します。

★仕上がり像

- 1 精神障害作業療法の評価から治療計画までの一連の流れを説明することができる。
- 2 精神科作業療法の評価からの問題点を治療・援助まで結びつけることができる。
- 3 臨床における精神障害者に対するコミュニケーション・面接法・基本的な態度などを実施することができる。
- 4 精神障害者の社会生活面での援助のあり方を説明することができる。

●授業内容

1	統合失調症の作業療法（急性期）
2	統合失調症の作業療法の実践（急性期）
3	統合失調症の作業療法（慢性期）
4	統合失調症の作業療法の実践（慢性期）
5	気分障害の作業療法（鬱病）
6	気分障害の作業療法の実践
7	気分障害の作業療法（躁病）
8	気分障害の作業療法の実践
9	発達障害の作業療法
10	神経症性障害の作業療法
11	摂食障害の作業療法
12	パーソナリティ障害の作業療法
13	精神作用物質依存障害の作業療法
14	認知行動療法とは
15	認知行動療法の実践
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、課題提出（10点）、平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：山根 寛 著「精神障害と作業療法 新版」（三輪書店、2015）
 岩崎テル子 他 編集「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」（医学書院、2017）
 上島国利・他 編集「精神医学テキスト 第4版」（南江堂、2017）

参考図書：山根 寛 著「ひとと集団・場 第2版」（三輪書店、2007）

●履修へのアドバイス

治療は障害を理解した上で行うものであることから、「精神障害学」で学んだ事の復習をしておきましょう。配付資料があるので、A4サイズのファイルを各自用意してください。

精神障害作業療法演習 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	中陳 寿枝・菊地 雅史・星有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

精神障害の病態と心理状態を理解し、援助していくための作業療法の実践的な知識を学びます。臨床での作業療法が実施できるようになるために精神障害者とのコミュニケーションのとり方、面接法、基本的な態度など作業療法の評価技術と評価を理解し、作業療法の実際の治療場面を想定し、より具体的な治療・援助の方法を習得します。

★仕上がり像

- 1 精神障害作業療法の評価から治療計画までの一連の流れを応用し、治療プログラムを実践することができる。
- 2 臨床における精神障害者に対するコミュニケーション・面接法・基本的な態度などを実践することができる。
- 3 精神障害者の社会生活面での援助のあり方を考え、プログラムに反映することができる。

●授業内容

1	精神障害作業療法の実践
2	集団作業療法の過程と方法
3	集団作業療法の実践
4	発達障害の作業療法の実践
5	教育プログラムの過程と方法
6	教育プログラムの実践と準備
7	教育プログラムの実践演習（統合失調症）
8	教育プログラムの実践演習（依存症）
9	課題志向プログラムの過程と方法
10	課題志向プログラムの実践と準備
11	課題志向プログラムの実践演習（SST）
12	課題志向プログラムの実践演習（コーチング）
13	課題志向プログラムの実践演習（アサーション）
14	動機づけ面接とは
15	動機づけ面接の実践
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、課題提出（10点）平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：山根 寛 著「精神障害と作業療法 新版」（三輪書店、2015）
 岩崎テル子 他 編集「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」（医学書院、2017）
 上島国利・他 編集「精神医学テキスト 第4版」（南江堂、2017）

●履修へのアドバイス

グループ課題が多いので、課題提出日および発表日に注意してください。同時に体調管理にも注意してください。授業内では積極的に発言し、お互いに理解を深めましょう。配付資料もありますので、A4サイズのファイルを各自用意してください。

老年期障害作業療法学 (全15回)	作業療法士科	2年	前期
	担当教員	中陳 寿枝・吉田 嵩	

●授業概要

★この授業のねらい

日本の超高齢社会により、高齢者の重複障がいに対応できる作業療法士が求められています。高齢者に代表的な認知症を中心としたその評価・介入・援助について学びましょう。

また高齢者や障がい者などを含めた終末期医療のあり方・作業療法の視点についても本授業では取り扱います。人が死にゆく過程と医療のみならず人間的な対応についても学びましょう。

★仕上がり像

- 1 認知症高齢者に対する作業療法の特徴・役割を説明できる。
- 2 認知症高齢者の行動特徴を理解し、介入・援助を実施できる。
- 3 認知症高齢者に対する治療プログラムを立案できる。
- 4 終末期リハビリテーションについて、作業療法の特徴を説明できる。

●授業内容

1	認知症の基礎知識と作業療法
2	認知症の評価 (情報収集)
3	認知症の評価 (検査・測定)
4	認知症の評価 (全体像の把握)
5	認知症の介入と援助 (中核症状)
6	認知症の介入と援助 (BPSD)
7	認知症の介入と援助 (レク)
8	認知症の介入と援助 (ACTIVITY)
9	認知症の介入と援助 (ADL)
10	予防的リハビリテーション
11	事例検討
12	事例発表
13	終末期医療と緩和ケア
14	終末期医療と作業療法
15	終末期リハビリテーション
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (80点)、平常点 (20点) により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：守口恭子 編集「高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版」
(三輪書店 2017)
大内尉義 編集「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版」
(医学書院、2014)

参考図書：山田 孝 編集「クリニカル作業療法シリーズ 高齢障害領域の作業療法」
(中央法規出版株式会社、2010)
松房利憲 編集「標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版」
(医学書院、2016)

●履修へのアドバイス

作業療法専門科目に入ると「考える」ことが多くなります。
授業中、授業外でも積極的に質問してください。

老年期障害作業療法演習 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	箭内 雅志	

●授業概要

★この授業のねらい

高齢障害者は、脳血管障害・パーキンソン病などの中枢神経疾患や、骨折等の運動器疾患の複数疾患を併せ持つことが多く、重度障害ケースも多くリハビリテーションに難渋する場面も少なくありません。実際の臨床現場では、総合的な知識を必要とする場合が多く、老年期という枠組みだけで作業療法を展開する事は困難です。

本授業では、身体障害作業療法学との関連で、中枢神経疾患におけるパーキンソン病と運動失調症・運動器疾患への治療を学んでいきましょう。

★仕上がり像

- 1 対象疾患の疾患特性を捉えた評価・分析・解釈ができる。
- 2 立案した治療計画について目的・方法・予測される治療効果を説明できる。
- 3 各治療手技の目的を理解し、実践できる。

●授業内容

1	パーキンソン病の作業療法(病態)
2	パーキンソン病の作業療法(評価)
3	パーキンソン病の作業療法(治療)
4	パーキンソン病の作業療法(治療演習)
5	パーキンソン病の作業療法(ADL支援)
6	運動失調症に対する作業療法(病態)
7	運動失調症に対する作業療法(評価)
8	運動失調症に対する作業療法(治療)
9	運動失調症に対する作業療法(ADL支援)
10	運動器疾患の高齢期作業療法(評価)
11	運動器疾患の高齢期作業療法(治療・予防)
12	パーキンソン病の事例検討
13	パーキンソン病の治療実技
14	運動失調症の事例検討
15	運動失調症の治療実技
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記試験(30点)、実技試験(60点)、平常点(10点)により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：菅原洋子 編集「作業療法学全書 作業治療学1 身体障害 改訂第3版 第4巻」
(協同医書出版社、2008)

参考図書：川平和美 編集「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版」
(医学書院、2013)

田崎義昭 著「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」(南山堂、2016)

●履修へのアドバイス

基礎医学、神経障害学で学んだ知識を十分に活かして障害像を深く理解することが大切です。
また、作業療法専門科目間の関連性が強い内容ですので、どの授業で学んだことも活かせるように幅の広い考えを身に付けましょう。

高次脳機能障害作業療法学（全15回）	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	箭内 雅志・内山 大輔	

●授業概要

★この授業のねらい

高次脳機能障害は全般的に捉えにくい難しさをもった障害です。この授業では、このような特徴をもつ高次脳機能障害について脳の全般的なはたらきと結びつけながら、一つ一つの知識を整理し、その理解を深めていきます。臨床で作業療法士が関わる多くの症候学的な問題と検査法、治療法について理解を深められるよう広く学習していきます。

★仕上がり像

- 1 高次脳機能障害の分類や症状の特徴を理解し、説明することができる。
- 2 高次脳機能障害の様々な問題に応じた評価を選択し、その治療内容を説明することができる。
- 3 高次脳機能障害の様々な問題に応じた治療を選択し、その治療内容を説明することができる。
- 4 高次脳機能障害に対する作業療法の役割を理解し、説明することができる。

●授業内容

1	注意障害の評価（CAT）
2	注意障害の治療
3	記憶障害の評価（Rey・S-PA・Benton）
4	記憶障害の評価（W-MSR）
5	記憶障害の治療
6	半側空間無視・身体失認・病態失認の評価（BITなど）
7	半側空間無視・身体失認・病態失認の評価・治療
8	失認・知覚陽性症状の評価・治療
9	行為の障害（標準高次動作検査・運動無視・把握）
10	行為の障害の治療
11	前頭葉機能障害と遂行機能障害の評価（BADS）
12	前頭葉機能障害と遂行機能障害の治療
13	知的機能の検査（WAIS実施）
14	知的機能の検査（WAIS演習）
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（60点）、授業ごとの課題提出（40点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岩崎テル子 編集「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版」
（医学書院、2017）

石合純夫 著「高次脳機能障害学 第2版」（医歯薬出版、2012）
石橋健司 著「脳画像の読み方 第2版」（医歯薬出版、2017）
参考図書：大村優慈 著「リハに役立つ脳画像」（メジカルビュー社、2016）

●履修へのアドバイス

高次脳機能障害について脳の全般的なはたらきと結びつけながら一つ一つ知識を整理していきたいと思います。2年次までの専門基礎分野・専門分野の復習をして授業に臨んでください。

発達障害作業療法学	(全15回)	作業療法士科	2年	通年
		担当教員	星 有理香・田中栄一・小玉武志	

●授業概要

★この授業のねらい

発達障害領域の基本的な知識を学びます。成長・発達期の子どもの対象とした作業療法の特徴を捉え、その目的を理解します。

★仕上がり像

- 1 発達障害領域の作業療法の役割を説明することができる。
- 2 発達障害領域の治療理論について説明することができる。
- 3 適切な評価方法と目的を述べることができる。
- 4 評価結果を様々な視点で解釈し、述べることができる。
- 5 エビデンスやリーズニングを意識した介入方法を立案できる。

●授業内容

1	オリエンテーション
2	発達障害の治療理論（理論の概略）
3	発達障害の治療理論（感覚統合理論）
4	発達障害の治療理論（神経発達学的治療理論）
5	発達障害の治療理論（認知・言語発達）
6	発達障害の治療理論（社会性の発達支援）
7	痙直型脳性まひの作業療法
8	アテトーゼ型脳性まひの作業療法
9	筋ジストロフィー・難病の作業療法
10	重症心身障害児（者）の作業療法
11	神経発達障害の作業療法
12	社会・教育制度の使い方と連携
13	グループワーク（現状の構造化）
14	グループワーク（目標とプログラムの立案）
15	グループワーク（全体のまとめ）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（70点）・授業内課題提出（10点）・平常点（20点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岩崎清隆 著「発達障害の作業療法 基礎編 第2版」（三輪書店、2015）
 岩崎清隆，岸本光夫 著「発達障害の作業療法 実践編 第2版」（三輪書店、2015）

参考図書：福田恵美子 編集「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版」（医学書院、2014）
 長谷龍太郎 編集「クリニカル作業療法シリーズ 発達障害領域の作業療法」（中央法規、2011）

●履修へのアドバイス

発達障害の治療理論はどの分野にも共通します。自分たちが発達してきた過程と関連付けて考えると理解が深まります。難しい用語も多いので、教科書やプリントで予習・復習してください。疾患ごとの作業療法は国家試験に頻出するので、しっかり学んで覚えましょう。

発達障害作業療法演習 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	星有理香・小玉武志・ 斉藤崇宣・田中栄一	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法における評価から治療プログラムの立案、実施の知識や技術を学びます。成長・発達する時期の子どもたちを捉えていくことはとても難しいことです。また、対象とする年齢によっては、親を含む家族への育児や環境の評価の比重が大きくなります。広い視野で、子どもたちが子どもらしく生きていくための介入方法を学びます。

★仕上がり像

- 1 発達の評価から治療プログラム立案までの過程を述べるができる。
- 2 観察や面接から得た情報を解釈し、述べるができる。
- 3 疾患や障害の発達への影響について考察することができる。
- 4 遊びと生活習慣について作業療法の介入方法を述べるができる。
- 5 当事者への寄り添い方を考え、述べるができる。
- 6 子どもが子どもらしく育つためのプログラムを立案することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション：発達障害を持つ子どもに対する作業療法実践の基本的な考え方
2	発達障害を持つ子どものライフステージ
3	疾患別作業療法の実践（知的障害・てんかん）
4	疾患別作業療法の実践（筋ジストロフィー・難病等）
5	疾患別作業療法の実践（発達障害：自閉症スペクトラム障害）
6	疾患別作業療法の実践（発達障害：ADHD・学習障害）
7	疾患別作業療法の実践（痙直型脳性まひ）
8	疾患別作業療法の実践（アテトーゼ型脳性麻痺）
9	疾患別作業療法の実践（重症心身障害児）
10	小児の訪問リハビリテーション
11	家族支援と他職種連携
12	治療各論（BTX・フレーリくん）
13	評価結果の解釈と目標設定
14	治療プログラムの立案と実践
15	グループ発表（評価・治療までのプレゼン）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、平常点（20点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岩崎清隆 著「発達障害の作業療法 基礎編 第2版」（三輪書店、2015）
 岩崎清隆、岸本光夫 著「発達障害の作業療法 実践編 第2版」（三輪書店、2015）
 参考図書：福田恵美子 編集「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版」（医学書院、2014）
 小西紀一 編集「改訂第2版 子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ」（メディカルビュー社、2018）

●履修へのアドバイス

今まで学んできた発達障害領域の作業療法の総まとめになります。人間発達学、発達障害作業療法評価学、発達障害学、発達障害作業療法学で身につけた知識を思い出しながら学習してください。発達障害領域の作業療法では「楽しい」ことが大切です。自分自身も一緒に楽しんでください。

日常生活活動学 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	内山 大輔・箭内 雅志	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法における日常生活への関わりは、作業療法の目的でもある「対象者が生き生きとした社会生活を送ることができるように援助すること」に通じていくもので、リハビリテーションを考えていく上で重要な部分でもあります。

この授業では、日常生活活動の定義や範囲など、日常生活活動の全般的な学習をしていきます。

★仕上がり像

- 1 日常生活活動の概念、構成要素などの基礎的知識が整理され、説明することができる。
- 2 日常生活活動関連の評価項目の目的・方法を説明し、適切な評価方法を選択できる。
- 3 日常生活活動に関する評価結果を分析することができる。

●授業内容

1	日常生活活動の概念と作業療法の役割と評価法
2	起居動作、移動・移乗動作
3	起居、移動・移乗動作動作演習
4	食事動作
5	食事動作演習
6	整容動作
7	整容動作演習
8	更衣動作
9	更衣動作演習
10	排泄動作
11	排泄動作演習
12	入浴動作
13	入浴動作演習
14	自助具・福祉用具
15	自助具制作演習
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（80点）と平常点（20点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：濱口豊太 編集「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学」
(医学書院、2014)

参考図書：長崎重信 監修「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学 第1版」
(メジカルビュー社、2016)

酒井ひとみ 編集
「作業療法技術学3 日常生活活動 作業療法学全書 改訂第3版 第11巻」
(協同医書出版、2009)

●履修へのアドバイス

リハビリテーションの理念に基づき、作業療法士は対象者の日常生活に広く関わり支援していく職種です。身体機能、精神機能、発達過程に応じて行われる様々な作業療法や職業生活、遊びや趣味、余暇活動などに対する作業療法など多方面の生活に視野を広げながら日常生活を支援する作業療法を学んでいきます。

日常生活活動学演習	(全15回)	作業療法士科	2年	通年
		担 当 教 員	三崎 一彦・他	

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法における日常生活活動への関わりは、リハビリテーションを取り巻く環境において重要な部分です。この授業では、日常生活活動の評価方法や治療・援助方法に関するポイントを様々な実習から学んでいきます。

また、作業療法の対象疾患について実際に日常生活活動プログラムの立案を行い、その基本と要点を学びます。これらの演習により日常生活活動を援助していく上で大切な作業療法の役割を学習し、それらを実践していける知識と技術の習得を目指します。

★仕上がり像

- 1 対象疾患・障害に応じて、日常生活活動の評価を選択し、実施することができる。
- 2 対象疾患・障害に応じて、日常生活改善への援助プログラムを立案し、実施することができる。
- 3 自助具・福祉用具についての知識を深め、各ニーズに応用することができる。

●授業内容

1	片麻痺患者の訓練プログラム(食事)
2	片麻痺患者の訓練プログラム(整容)
3	片麻痺患者のプログラム(更衣)
4	片麻痺患者の訓練プログラム(トイレ)
5	片麻痺患者の訓練プログラム(入浴)
6	脊髄損傷患者の訓練プログラム(食事・整容)
7	脊髄損傷患者の訓練プログラム(更衣・トイレ・入浴)
8	関節リウマチ患者の訓練プログラム(食事・整容)
9	関節リウマチ患者の訓練プログラム(更衣・トイレ・入浴)
10	呼吸器疾患患者の訓練プログラム
11	整形外科疾患患者の訓練プログラム
12	神経難病患者の訓練プログラム
13	IADL(調理)
14	IADL(掃除・洗濯)
15	IADL(その他)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(80%)、平常点(20%)で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田川義勝 編集「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学」
(医学書院、2014)

参考図書：酒井ひとみ 編集
「作業療法技術学 3 日常生活活動 作業療法学全書 改訂第3版 第11巻」
(協同医書出版、2009)

長崎重信 監修「作業療法学 ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学 第1版」
(メジカルビュー社 2016)

●履修へのアドバイス

日常生活活動学の知識を活かして、日常生活を支援する作業療法のより実践的となる部分を学んでいきましょう。演習を通して様々な生活上の新たな気づきが生まれてくるとと思いますので、演習へは積極的に参加し、考え方を広げていってください。

装具関連作業療法演習 (全 15 回)	作業療法士科		2 年	後期
	担 当 教 員	黒澤 辰也		

●授業概要

★この授業のねらい

義肢の歴史、分類、切断、仮義手の製作・訓練、装具の役割、分類、機能、上肢装具、治療訓練、適応疾患について学び、実際にスプリントの製作を行います。また義手・スプリント・車椅子のチェックアウトを実施します。

★仕上がり像

- 1 義肢の歴史、分類、切断、義手の訓練、チェックアウトについて説明、実施することができる。
- 2 装具の役割、分類、機能等について説明、実施することができる。
- 3 仮義手・上肢装具・スプリントの製作、チェックアウトについて説明、実施することができる。
- 4 車椅子のチェックアウトについて説明、実施することができる。

●授業内容

1	義肢・装具に関するオリエンテーション
2	車椅子の概要とチェックアウト
3	歩行補助具の概要と調整
4	義肢（義手・義足）の概要
5	義肢（義手・義足）の構成要素
6	義肢のチェックアウト・評価と訓練
7	各種装具（上肢・下肢・体幹）の概要
8	作業療法士の役割と上肢装具・スプリント
9	上肢装具・スプリントのチェックアウト、訓練等
10	スプリント製作演習(型紙作成とフィッティング)
11	スプリント製作演習(モールドイング・トリミング)
12	スプリントチェックアウト実習
13	上肢装具・スプリントの訓練
14	上肢装具・スプリントの適応疾患
15	自助具の概要
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記（40点）課題提出（40点）・平常点（20点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：古川 宏 編集・社団法人日本作業療法士協会 監修
「作業療法学全書〔改訂第3版〕第9巻作業療法技術学1 義肢装具学」
(協同医書出版社、2009)

考図書：木之瀬 隆 編集・社団法人日本作業療法士協会 監修
「作業療法学全書〔改訂第3版〕第10巻作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備」
(協同医書出版社、2009)

●履修へのアドバイス

製作演習時、高温の器具を使用するので周囲に十分気を配って行動してください。
熱傷には十分に注意してください。

地域リハビリテーションⅡ（全23回）	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	齊藤 淳 ・ 矢部 滋也 吉田 嵩 ・ 菊地 雅史	

●授業概要

★この授業のねらい

地域における作業療法士像を具体的にイメージし、自己の目指す作業療法士の理想像を描けるように、介護保険領域における施設・事業所のサービスの特色、作業療法士や関連職種等の役割について体験実習を行います。地域に暮らす障害者・高齢者等とのコミュニケーションにより、対象者の全体像・障害像を捉え、体験実習で得た情報をもとに統合・解釈し、対象者の課題・目標を挙げるため、座学・体験実習を実施していきます。

★仕上がり像

- 1 社会人、専門書として望ましい態度や行動をとることができる。
- 2 保険医療の専門職として、指導者や対象者とのコミュニケーションがとることができる。
- 3 介護保険領域・精神障害領域における事業所等の割を把握することができる。
- 4 対象者の心身機能・ADL等の状態を把握し、課題を抽出し目標を立てることができる。

●授業内容

1	オリエンテーション(介護保険領域)	16	オリエンテーション(精神障害領域)
2	ICFの理解と演習	17	体験実習(就労移行支援事業所：施設見学)
3	ICFの理解と演習（事例検討）	18	体験実習(就労移行支援事業所：面接)
4	体験実習(通所介護：情報収集)	19	就労移行支援事業所概要のまとめ
5	体験実習(通所介護：見学・面接)	20	体験実習(就労継続支援事業所：施設見学)
6	体験実習(通所介護：記録)	21	体験実習(就労継続支援事業所：面接)
7	体験実習(地域密着型通所介護：情報収集)	22	就労継続支援事業所概要のまとめ
8	体験実習(地域密着型通所介護：見学・面接)	23	体験実習での事例から課題抽出と発表
9	体験実習(地域密着型通所介護：記録)		
10	体験実習(通所リハビリテーション：収集)		
11	体験実習(通所リハビリテーション：見学)		
12	体験実習(通所リハビリテーション：面接)		
13	体験実習(通所リハビリテーション：記録)		
14	体験実習の事例から課題の抽出		
15	体験実習での事例から課題の抽出と発表		

●成績評価のしかた

- ① 体験実習を通じた学習姿勢・態度（コミュニケーションを含む）、課題への取り組み。
 - ② 体験実習を通じた発表用資料。
 - ③ 平常点（事業に対する姿勢）。
- ※ ①②：③を9：1の割合で総合的に成績評価を行う。

●教科書・参考図書

教科書：徳永千尋 編集「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学」
(メジカルビュー社、2016)

●履修へのアドバイス

体験実習や演習では、積極的な行動をとりましょう。
遅刻・早退や欠席の場合は、必ず連絡してください。
体験実習の指導者には、常に「報告」「連絡」「相談」を心がけましょう。

生活環境学 (全15回)	作業療法士科	2年	通年
	担当教員	箭内 雅志	

●授業概要

★この授業のねらい

人間は自身の機能や能力などの内部環境と、人的・物理的・文化・自然などの周囲環境から与えられる外部環境との相互関係の中で活動しています。

生活環境学とは、対象者を取り巻く環境、つまり外部環境について考察する授業になります。

本授業では、生活環境について疾患別の住環境整備や福祉用具の選択を適切に選択できることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 住環境整備のあり方・住宅改修方法を説明できる。
- 2 住環境整備に必要な福祉用具について説明できる。
- 3 疾患・障害に応じた環境設定を実施できる。

●授業内容

1	住環境・住環境整備とは
2	住環境整備の進め方と留意点
3	住環境整備の基本的配慮(住宅部位)
4	住環境整備の基本的配慮(各室)
5	高齢者の住環境整備
6	高齢者の住環境整備演習
7	脳血管障害の住環境整備
8	脳血管障害の住環境整備演習
9	脊髄損傷の住環境整備
10	脊髄損傷の住環境整備演習
11	神経難病の住環境整備演習
12	関節リウマチの住環境整備演習
13	感覚器障害の住環境整備
14	事例検討
15	事例発表
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(80点)、レポート課題(10点)、平常点(10点)により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：野村 観 著「OT・PTのための住環境整備論 第2版」(三輪書店、2012)

参考図書：木村哲彦 監修「生活環境論－生活支援の視点と方法 第6版」
(医歯薬出版株式会社、2010)
金沢善智 著「利用者から学ぶ福祉住環境整備」(三輪書店、2008)

●履修へのアドバイス

配付資料が多くなりますので、各自で2穴ファイルを準備して保管してください。
グループディスカッション・演習なども多く取り入れます。

臨床実習Ⅱ（評価）	（１３５時間）	作業療法士科	２年	後期
		担当教員	各臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

２年次の臨床見学実習で得られた知識や経験の上に専門知識を加えて、実際の臨床場面において評価から問題点の抽出、目標設定・治療計画の立案までのプロセスを経験します。

★仕上がり像

- １ 社会人・専門職としての望ましい態度や行動をとることができる。
- ２ 保健医療の専門職として、指導者や対象者とコミュニケーションを円滑にとることができる。
- ３ 専門用語を用いて適切な記録・報告をすることができる。
- ４ これまでに学んだ知識を指導者の助言・見守りのもとに行動・技術にすることができる。
- ５ 対象者にとって相応しい評価を計画・実施することができる。
- ６ 評価の計画と実施方法を必要に応じて変更・修正することができる。
- ７ 評価結果から、対象者の全体像を把握することができる。
- ８ 対象者にとって相応しい目標を設定し、達成する為の治療プログラムを立案することができる。

●授業内容

〔第１週〕 オリエンテーション・院内見学等 評価計画書の提出 担当症例初期評価開始	〔第３週〕 治療場面見学と考察(デイリーノートの作成) 担当症例初期評価継続（指導） ケースノート等提出(指導) 担当症例評価サマリーシート提出（指導）
〔第２週〕 治療場面見学と考察(デイリーノートの作成) 担当症例初期評価継続（指導） ケースノート等提出(指導) 中間評価(学生自己評価提出) ※教員実習訪問	〔第４週〕 治療場面見学と考察(デイリーノートの作成) 担当症例評価サマリーシート最終提出 実習のまとめ、サマリー発表 学生最終評価 ※症例検討会(学内)

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価（５０点）、症例検討会の発表等（５０点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

臨床実習指導者と連絡をとり、必要と思われる参考図書や資料を事前にそろえておきましょう。

●履修へのアドバイス

遅刻・早退や欠席の場合は、必ず事前に連絡しましょう。
 社会人としての言動を求められます。学生だという甘えた気持ちは捨ててください。
 １人で解決しようとしなくて、すぐ相談や報告を行うようにしましょう。
 常に積極的に行動するようにしましょう。

2019年度 作業療法士科3年 履修科目一覧

授業科目	区分	3年次		合 計
		前期	後期	時間数
医療関係法規	講義		15	15
作業療法特論	講義		60	60
作業療法特論演習	演習		60	60
作業療法研究法	講義		15	15
作業療法管理学	講義	8	7	15
職業関連作業療法学	講義		15	15
作業療法治療学各論	講義	8	7	15
地域作業療法	講義		15	15
臨床実習Ⅲ(総合)	実習	315		315
臨床実習Ⅳ(総合)	実習	315		315

※科目名をクリックするとシラバスページへジャンプします。

医療関係法規 (全8回)	作業療法士科	3年	後期
	担当教員	旗手 俊彦	

●授業概要

★この授業のねらい

- 1 医療・保健・福祉に関する法制度と現代的問題について理解を得ます。
- 2 国家試験の医療関係法規問題を学び、要点を理化できるようにします。

★仕上がり像

- 1 医療・保健・福祉に関する法制度について基礎的知識を説明できる。
- 2 諸制度の問題点について現場から問題提起し改革案を提示できる。
- 3 国家試験の医療関係法規に関する問題について全問正解することができる。

●授業内容

1	医療従事者資格/理学療法士・作業療法士法		
2	医療施設・医療供給体制		
3	医療保険制度		
4	診療報酬		
5	高齢者福祉・介護保険・年金		
6	精神保健福祉法		
7	精神保健福祉に関するその他重要な法律		
8	国家試験・まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験80点、平常点20点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

特に教科書は指定せず、毎回授業時にプリント資料を配付します。

●履修へのアドバイス

配付するプリントを各自できちんとファイルにまとめてください。

作業療法特論 (全30回)	作業療法士科		3年	後期
	担当教員	曾我部 いづみ・竹下 悠哉 内山 大輔		

●授業概要

★この授業のねらい

国家試験合格のためには膨大な出題範囲をできる限り深く、確実に学習しなければなりません。ここでは、国家試験の傾向とともにポイントをしばって整理、学習を進めていきます。国家試験に対してしっかり対策を立てて臨めるよう、専門基礎分野と専門分野の知識を整理、確認して国家試験合格を目指していきます。

★仕上がり像

- 1 国家試験で問われる専門基礎分野の知識を整理、再確認し、得点力アップにつなげることができる。
- 2 国家試験で問われる専門分野の知識を整理、再確認し、得点力アップにつなげることができる。

●授業内容

1	専門基礎分野	生理学	代謝・血液	16	専門基礎分野	内科学	消化器疾患
2	専門基礎分野	生理学	免疫・循環	17	専門基礎分野	内科学	代謝・内分泌疾患
3	専門基礎分野	生理学	呼吸・消化と吸収	18	専門基礎分野	整形外科学	骨折・脱臼
4	専門基礎分野	生理学	排泄・内分泌	19	専門基礎分野	整形外科学	末梢神経障害
5	専門基礎分野	生理学	筋・神経系	20	専門基礎分野	整形外科学	変形性関節症他
6	専門基礎分野	生理学	感覚と受容器	21	専門基礎分野	小児発達	
7	専門基礎分野	病理学		22	専門基礎分野	人間科学	
8	専門基礎分野	解剖学	中枢神経	23	専門基礎分野	身体障害学	脳血管疾患
9	専門基礎分野	解剖学	脳神経・末梢神経	24	専門基礎分野	身体障害学	神経変性
10	専門基礎分野	解剖学	脳血管・循環系	25	専門基礎分野	身体障害学	内科疾患
11	専門基礎分野	解剖学	筋・靱帯・内臓	26	専門基礎分野	身体障害学	脊髄損傷他
12	専門基礎分野	解剖学	骨・関節・神経支配	27	専門基礎分野	精神障害学	統合失調症
13	専門基礎分野	内科学	膠原病	28	専門基礎分野	精神障害学	気分障害
14	専門基礎分野	内科学	呼吸器疾患	29	専門基礎分野	精神障害学	神経症性障害
15	専門基礎分野	内科学	循環器疾患	30	専門基礎分野	精神障害学	認知症
							定期試験

●成績評価のしかた

定期試験60点、課題提出40点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

必要に応じて資料を配付します。

●履修へのアドバイス

国家試験合格に向けて最後の追い込みです。知っている知識はより確実に、知らないことや疑問はしっかり確認しながら、勉強を進めていきましょう。少しでも不安な部分を自信に変え国家試験に臨めるよう有意義な時間にいきましょう。

作業療法特論演習 (全30回)	作業療法士科	3年	後期
	担当教員	内山 大輔	

●授業概要

★この授業のねらい

国家試験の本番にむけて、当日同様、午前・午後に分けた模擬試験を経験することにより、専門基礎分野、専門分野の出題傾向・適切な解答を選択できるようになります。回を重ねるごとに、適切な時間配分でミスなくマークシートに記入できる力をつけていきます。早期から実際の試験感覚に慣れ、また、弱点分野対策にも役立てられるよう国家試験対策を進め、国家試験合格を目指していきます。

★仕上がり像

- 1 過去の国家試験問題の出題傾向を知り、問題を解くことができる。
- 2 マークシートにミスなく正確に記入することができる。
- 3 国家試験を確実に・正確に解いていける時間配分を身につけられる。

●授業内容

1	オリエンテーション	16	国家試験模擬試験演習（第7回）
2	国家試験模擬試験演習（第1回）	17	国家試験模擬試験演習（第7回）
3	国家試験模擬試験演習（第1回）	18	国家試験模擬試験演習（第7回）
4	国家試験模擬試験演習（第2回）	19	国家試験模擬試験演習（第8回）
5	国家試験模擬試験演習（第2回）	20	国家試験模擬試験演習（第8回）
6	国家試験模擬試験演習（第3回）	21	国家試験模擬試験演習（第8回）
7	国家試験模擬試験演習（第3回）	22	国家試験模擬試験演習（第9回）
8	国家試験模擬試験演習（第4回）	23	国家試験模擬試験演習（第9回）
9	国家試験模擬試験演習（第4回）	24	国家試験模擬試験演習（第9回）
10	国家試験模擬試験演習（第5回）	25	国家試験模擬試験演習（第10回）
11	国家試験模擬試験演習（第5回）	26	国家試験模擬試験演習（第10回）
12	国家試験模擬試験演習（第5回）	27	国家試験模擬試験演習（第10回）
13	国家試験模擬試験演習（第6回）	28	国家試験模擬試験演習（第11回）
14	国家試験模擬試験演習（第6回）	29	国家試験模擬試験演習（第11回）
15	国家試験模擬試験演習（第6回）	30	国家試験模擬試験演習（第11回）
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験60点、課題提出40点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

必要に応じて資料を配付します。

●履修へのアドバイス

国家試験合格に向け、実践経験をつんでいきましょう。少しずつ、そして確実に自己学習が模擬試験結果につながり、不安から自信に、さらなる学習意欲につながっていけるよう取り組んでいきましょう。目標は国家試験合格です。一步一步確実に国家試験合格に近づけるよう模擬試験を有効活用していきましょう。

作業療法研究法 (全8回)	作業療法士科		3年	後期
	担当教員	黒澤 辰也・星 有理香		

●授業概要

★この授業のねらい

作業療法にとって、その学問を発展させるためには研究が大きな意味を為します。これから作業療法士として作業療法を実施するための知識、技術を発展させる上で必要となる研究法や研究結果から得られたデータについての統計的処理方法を学びます。

★仕上がり像

- 1 作業療法における研究の意義を述べることができる。
- 2 統計検定法の種類を述べることができる。
- 3 基本統計量を説明することができる。
- 4 「平均値検定」「平均値を使わない検定」を使うことができる。
- 5 分散分析及び相関・回帰・推定を説明することができる。

●授業内容

1	研究・論文とは		
2	研究論文に必要な資料の種類		
3	資料処理方法の種類		
4	統計とは		
5	平均値の差の検定方法		
6	出現率の差の検定		
7	分散分析		
8	相関・回帰・推定 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験60点、課題提出40点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：鎌倉矩子・宮前珠子・清水一 著「作業療法士のための研究法入門」
(三輪書店、1997)
渡邊宗孝・寺見春恵・金子翼 著「PT・OTのための統計学入門」
(三輪書店、1997)

●履修へのアドバイス

統計に関する学習は非常に難解な分野なので予習復習を行うと分かりやすくなります。
自分の興味のある ことは何でも研究材料になります。普段から素朴な疑問を大切にしましょう。

作業療法管理学 (全8回)	作業療法士科		3年	通年
	担当教員	久世 昭宏・内山 大輔 箭内 雅志・菊地 雅史		

●授業概要

★この授業のねらい

社会に出て医療・福祉・保健領域で、専門職として働くことは大変なことです。その中でどのように職域や地位を確立し、信頼されるセラピスト、部門になることができるのか、考えて行動できるようになりましょう。各領域での作業療法の診療報酬やその他の取り組みについて学びましょう。

★仕上がり像

1. 診療報酬などの仕組みを説明することができる。
2. 作業療法部門の管理・運営における問題解決の方法において自身の考えを述べることができる。
3. 専門職としての職業倫理 について自分の考え述べるができる。
4. 地域での作業療法の取り組みについて講義を受け説明することができる

●授業内容

1	診療報酬の仕組み（身体障害領域）
2	診療報酬の仕組み（精神障害領域）
3	診療報酬の仕組み（介護保険領域）
4	診療報酬の仕組み（訪問リハビリテーション）
5	地域での作業療法
6	地域での作業療法の実際
7	地域での作業療法介入の実例
8	地域での作業療法の取り組み

●成績評価のしかた

レポート提出（80点）、平常点（20点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

作成資料をその都度配付します。

●履修へのアドバイス

セラピスト個人は知識や技術を伸ばすことが重要です。同じように作業療法という部門も伸びていく必要があります。自分がリーダーとして働くことも想像しながら学びましょう。

職業関連作業療法学 (全8回)	作業療法士科	3年	後期
	担当教員	黒澤 辰也・菊地 雅史	

●授業概要

★この授業のねらい

「働く」ということが人の生活にとってどのような価値をもつのかという視点で、リハビリテーションを考えていくことが重要です。しかし、現実には医学的なリハビリテーションで終わることも少なくない現状です。作業療法の歴史的な背景を踏まえ、近年の障害者施策をとらえながら就労問題に積極的に取り組めるように、基本的な考え方を身に付けましょう。

★仕上がり像

- 1 職業リハビリテーションの概略を説明できる。
- 2 作業療法の役割を考え、基本的な知識・技術を説明できる。
- 3 障害のある人にとっての職業・就労の意味を考えて列挙できる。

●授業内容

1	職業リハビリテーションの概念		
2	職業リハビリテーションの展開		
3	キャリア発達の視点		
4	職業評価		
5	職業生活への参加		
6	職業生活の継続		
7	障害特性と職業的な課題		
8	生活支援と就労支援の関連		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：平賀昭信 編集 「作業療法学全書 作業療法技術学 4 職業関連活動 改訂第3版」
(協同医書出版、2017)
松井信雄・菊地恵美子 編集
「職業リハビリテーション学 キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系 改訂第2版」
(協同医書出版、2006)

●履修へのアドバイス

病院等の施設での作業療法ではあまり気にすることのない就労問題です。しかし、社会生活や自立生活の基本はどのような形式にせよ、就労することがひとつの指標になります。
作業療法士が就労問題に取り組まなければ誰も考えてはくれないのではと自問しながら学びましょう。

作業療法治療学各論 (全8回)	作業療法士科	3年	通年
	担当教員	内山大輔・星有理香・青野智仁 須長絵梨香・斎藤明德・佐藤静佳	

●授業概要

★この授業のねらい

これまで各分野で学習してきたことをまとめ、作業療法とは何かということについて、実際の現場の状況をふまえながら作業療法についての理解をより深め、作業療法士としての独自性を考察します。

★仕上がり像

- 1 各分野の現状を述べることができる。
- 2 各分野の臨床の流れを説明することができる。

●授業内容

1	作業療法の実際（精神障害分野）
2	作業療法の実際（発達障害分野）
3	作業療法の実際（生活期の流れ）
4	作業療法の実際（生活期の介入）
5	作業療法の実際（地域作業療法の流れ）
6	作業療法の実際（地域作業療法分野の介入）
7	作業療法の実際（中枢神経障害分野）
8	作業療法の実際（整形外科分野）

●成績評価のしかた

レポート課題80点、平常点20点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

必要に応じて作成資料を度配付します。

●履修へのアドバイス

各分野の作業療法の流れや現状についての授業です。これまでの授業・実習で学んだ内容が基本になると思います。より臨床に近い内容となっていますので、1つ1つの講義に集中して取り組んでください。

地域作業療法 (全8回)	作業療法士科	3年	後期
	担当教員	宮田 友樹	

●授業概要

★この授業のねらい

地域作業療法とは、活動や参加に制約のある人々が望むくらしを、その住む地域で実現するために、その人にふさわしい役割や楽しみとなる作業の獲得を促すことです。「生活」・「作業（occupation）」という作業療法の有する基本的な援助技術を基に、障害児・者の安心できる「生活づくり」と「地域づくり」、さらに障害者および家族・地域住民を含めた「ヒトづくり」への支援を目的に活動するものです。本授業では病院・施設から在宅復帰を目指すための介入方法、さらに訪問リハビリテーションにおける介入方法など地域における作業療法の援助技術を学びます。

★仕上がり像

- 1 地域作業療法に必要な多角的・包括的・前方視的な評価の視点を持つことができる。
- 2 評価の結果から具体的な援助方法を考案できる。
- 3 地域作業療法の概略を理解し、障害児・者にとってより良い生活とは何か、自分なりに考察できる。

●授業内容

- 1 地域作業療法の実践(地域作業療法について知る)
- 2 地域作業療法の実践(ICFの復習と生活行為向上マネジメント概論)
- 3 生活行為向上マネジメント(生活行為聞き取りシート)
- 4 生活行為向上マネジメント(興味関心チェックシート)
- 5 生活行為向上マネジメント(生活行為課題分析シート)
- 6 生活行為向上マネジメント(生活行為向上マネジメントシート)
- 7 事例検討(精神障害)
- 8 事例検討(身体障害)

●成績評価のしかた

レポート課題80点、平常点20点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

【参考図書】

一般社団法人 日本作業療法士会 編著「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」
(医歯薬出版株式会社、2015)

石井晴美 編著
「作業療法が生きる地域リハビリテーションのすすめーいのち輝く生活の支援を目指して」
(シービーアール、2015)

上田敏 編著
「ICF(国際生活機能分類)の理解と活用
一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか」 (きょうされん、2005)

●履修へのアドバイス

臨床実習で担当した症例を通して地域作業療法を学びます。
授業にはケースノート・レポート、その他関連情報を持参してください。
また、2年次の地域リハビリテーション資料や教科書等も必ず持参してください。

臨床実習Ⅲ（総合）（315時間）	作業療法士科	3年	前期
	担当教員	各臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床実習指導者の監督の下、各種疾患の障害に対するリハビリテーション全般を実習体験します。身体的・精神的・社会的な面など対象者を取り巻く状況全てを包括的にとらえ、医療従事者としてリハビリテーション専門職としての基本的な資質・知識・技術を身につけることを目標とします。また、評価～問題点抽出～治療計画立案～治療実施という一貫した流れを経験し学習します。

★仕上がり像

- 1 保健医療の専門職として望ましい態度や行動をとることができる。
- 2 能動的に周囲に働きかけ、学んだ知識を行動・技術にすることができる。
- 3 対象者の評価を計画・実施し、必要に応じて変更・修正することができる。
- 4 対象者にとって相応しい目標を設定し、達成するための治療プログラムを立案できる。
- 5 対象者の反応や変化を的確に捉え、実施方法等を変更し適切に対応することができる。
- 6 実施した治療の経過や結果の妥当性を検証し、治療目標・プログラムを変更、修正できる。
- 7 全体を俯瞰し、保健医療の専門職として自己の将来像を描くことができる。

●授業内容

[第1週] オリエンテーション・院内見学等 担当症例初期評価開始 [第2週] 担当症例初期評価継続 [第3週] 担当症例初期評価ケースノート提出（指導） 担当症例治療実施 [第4週] 担当症例治療実施・修正 [第5週] 担当症例治療実施・修正 学生中間評価 ※教員実習訪問 [第6週] 担当症例再評価 担当症例治療実施・修正	[第7週] 担当症例治療実施・修正 担当症例最終評価 担当症例治療実施・修正 担当症例サマリーシート提出（指導） [第8週] 症例発表会（施設内） 担当症例サマリーシート完成 学生最終評価 ※治療場面見学と考察 （デイリーノートの作成） ※症例検討会（学内）
--	--

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価（50点）と症例検討会の発表等（50点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

臨床実習指導者と連絡をとり、必要と思われる参考図書や知識を事前にそろえておきましょう。

●履修へのアドバイス

遅刻・早退や欠席の場合は、必ず事前に連絡しましょう。
1人で解決しようとしなくて、すぐ相談や報告を行うようにしましょう。
常に積極的に行動するようにしましょう。

臨床実習Ⅳ（総合）（315時間）	作業療法士科	3年	前期
	担当教員	各臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床実習指導者の監督の下、各種疾患の障害に対するリハビリテーション全般を実習体験します。身体的・精神的・社会的な面など対象者を取り巻く状況全てを包括的にとらえ、医療従事者としてリハビリテーション専門職としての基本的な資質・知識・技術を身につけることを目標とします。また、評価～問題点抽出～治療計画立案～治療実施という一貫した流れを経験し学習します。

★仕上がり像

- 1 保健医療の専門職として望ましい態度や行動をとることができる。
- 2 能動的に周囲に働きかけ、学んだ知識を行動・技術にすることができる。
- 3 対象者の評価を計画・実施し、必要に応じて変更・修正することができる。
- 4 対象者にとって相応しい目標を設定し、達成するための治療プログラムを立案できる。
- 5 対象者の反応や変化を的確に捉え、実施方法等を変更し適切に対応することができる。
- 6 実施した治療の経過や結果の妥当性を検証し、治療目標・プログラムを変更、修正できる。
- 7 全体を俯瞰し、保健医療の専門職として自己の将来像を描くことができる。

●授業内容

[第1週] オリエンテーション・院内見学等 担当症例初期評価開始 [第2週] 担当症例初期評価継続 [第3週] 担当症例初期評価ケースノート提出（指導） 担当症例治療実施 [第4週] 担当症例治療実施・修正 [第5週] 担当症例治療実施・修正 学生中間評価 ※教員実習訪問 [第6週] 担当症例再評価 担当症例治療実施・修正	[第7週] 担当症例治療実施・修正 担当症例最終評価 担当症例治療実施・修正 担当症例サマリーシート提出（指導） [第8週] 症例発表会（施設内） 担当症例サマリーシート完成 学生最終評価 ※治療場面見学と考察 （デیلیーノートの作成） ※症例検討会（学内）
--	---

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価（50点）と症例検討会の発表等（50点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

臨床実習指導者と連絡をとり、必要と思われる参考図書や知識を事前にそろえておきましょう。

●履修へのアドバイス

遅刻・早退や欠席の場合は、必ず事前に連絡しましょう。
1人で解決しようとししないで、すぐ相談や報告を行うようにしましょう。
常に積極的に行動するようにしましょう。